

盛岡市道の駅基本計画

平成31年3月

盛岡市

盛岡市道の駅基本計画 目次

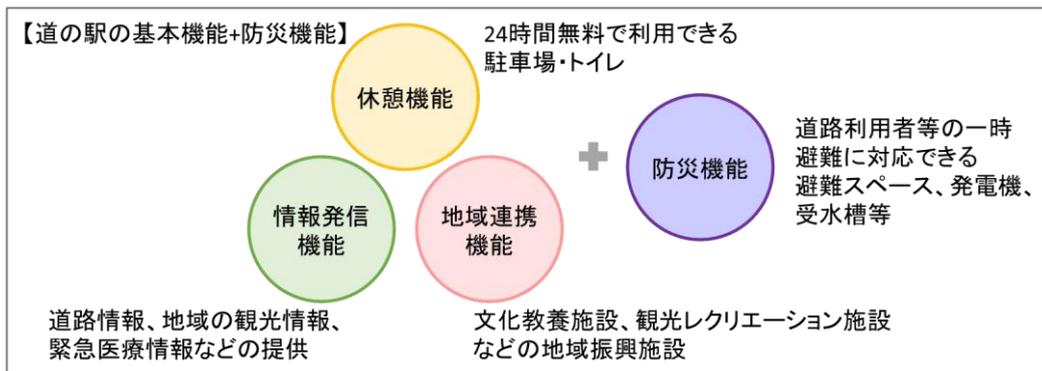
第1章	基本計画策定にあたって	- 1 -
1-1	制度としての「道の駅」の機能	- 1 -
1-2	盛岡市の道の駅構想・計画の背景	- 2 -
1-3	本計画の目的	- 3 -
1-4	道の駅整備の流れ	- 6 -
第2章	「地域の現状」と「道の駅整備の目的」	- 7 -
2-1	「地域の現状」・「盛岡市『道の駅』の目的」	- 7 -
2-2	盛岡市「道の駅」の目指すもの	- 7 -
2-3	盛岡市「道の駅」の基本コンセプト	- 8 -
第3章	地域概況	- 9 -
3-1	敷地条件の整理	- 9 -
3-2	人口動向	- 15 -
3-3	農業動向	- 16 -
3-4	商圏調査	- 17 -
3-5	観光動向	- 20 -
3-6	特産品	- 22 -
3-7	地域の強みと弱み（地域概況のまとめ）	- 23 -
第4章	「道の駅」に求められるニーズ	- 25 -
4-1	「道の駅」利用者の声～アンケート調査から	- 25 -
4-2	近隣道の駅調査	- 26 -
4-3	道の駅の事例調査	- 28 -
4-4	地域住民ニーズ1（ヒアリング調査）	- 29 -
4-5	地域住民ニーズ2（ワークショップの実施）	- 30 -
4-6	住民懇談会の主な結果	- 34 -
4-7	「道の駅石神の丘」利用調査の主な結果	- 36 -
4-8	各道の駅の訪問から得た主な結果	- 37 -
4-9	庁内ワークショップ	- 38 -
4-10	マーケットの状況	- 39 -
4-11	道の駅の計画づくりの与条件と道の駅に求められる方向性	- 40 -
第5章	導入施設の整備方針	- 41 -
5-1	施設整備の基本方針	- 41 -
5-2	新規参入者としての基本戦略	- 41 -
5-3	「ターゲット」と「より特徴のある戦略」	- 42 -

5-4	導入施設の整備方針	- 43 -
5-5	「盛岡・玉山」らしい道の駅を目指した地域振興策の整理	- 53 -
5-6	石川啄木記念館との連携（まとめ）	- 54 -
5-7	渋民地区等の活性化	- 54 -
第6章	施設配置計画	- 55 -
6-1	施設位置周辺の現況把握	- 55 -
6-2	前提条件の整理	- 56 -
6-3	配置計画概念図	- 57 -
6-4	施設規模	- 58 -
6-5	適正な施設規模の検討	- 64 -
第7章	建築（空間・意匠）計画	- 70 -
第8章	管理運営	- 72 -
8-1	管理運営方式の検討	- 72 -
8-2	管理運営方法の整理	- 75 -
8-3	事業スケジュール（案）	- 78 -
第9章	施設整備のための資金計画	- 79 -
9-1	「道の駅」の整備手法の整理	- 79 -
9-2	盛岡市が整備主体となる施設の整備方法について	- 81 -
9-3	財源	- 82 -
第10章	今後の課題	- 83 -
10-1	管理運営に関する課題	- 83 -
10-2	施設整備に関する課題	- 83 -
第11章	KPI（重要業績評価指標）	- 84 -
11-1	KPIの設定	- 84 -
第12章	道の駅整備方針検討会	- 85 -
12-1	道の駅整備方針検討会	- 85 -

第1章 基本計画策定にあたって

1-1 制度としての「道の駅」の機能

道の駅は「道路利用者への安全で快適な道路交通環境の提供」「地域の振興に寄与」することを目的として平成5年に発足した制度で、現在では全国で1,145駅が登録されています（平成30年4月25日現在）。発足から20年以上が経過し、道の駅の基本機能（休憩機能、情報発信機能、地域連携機能）に加えて、防災機能を備える道の駅も増えてきました。さらに、地域の創意工夫による様々な取組により道の駅を小さな拠点とした地域活性化が図られ始めています。



【道の駅に必要と想定される機能・施設】

休憩機能（道の駅登録要件）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐車場 ・ トイレ
情報発信機能（道の駅登録要件）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路情報、地域情報の提供
地域連携機能（道の駅登録要件）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の特産品を活かした地産地消レストラン等 ・ 特産物・農産物を販売・PRする物産施設 ・ 伝統文化の発表の場・体験観光等、地域の様々な創意工夫による取組
防災機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 災害情報の発信 ・ 一時避難スペースの提供 ・ トイレ

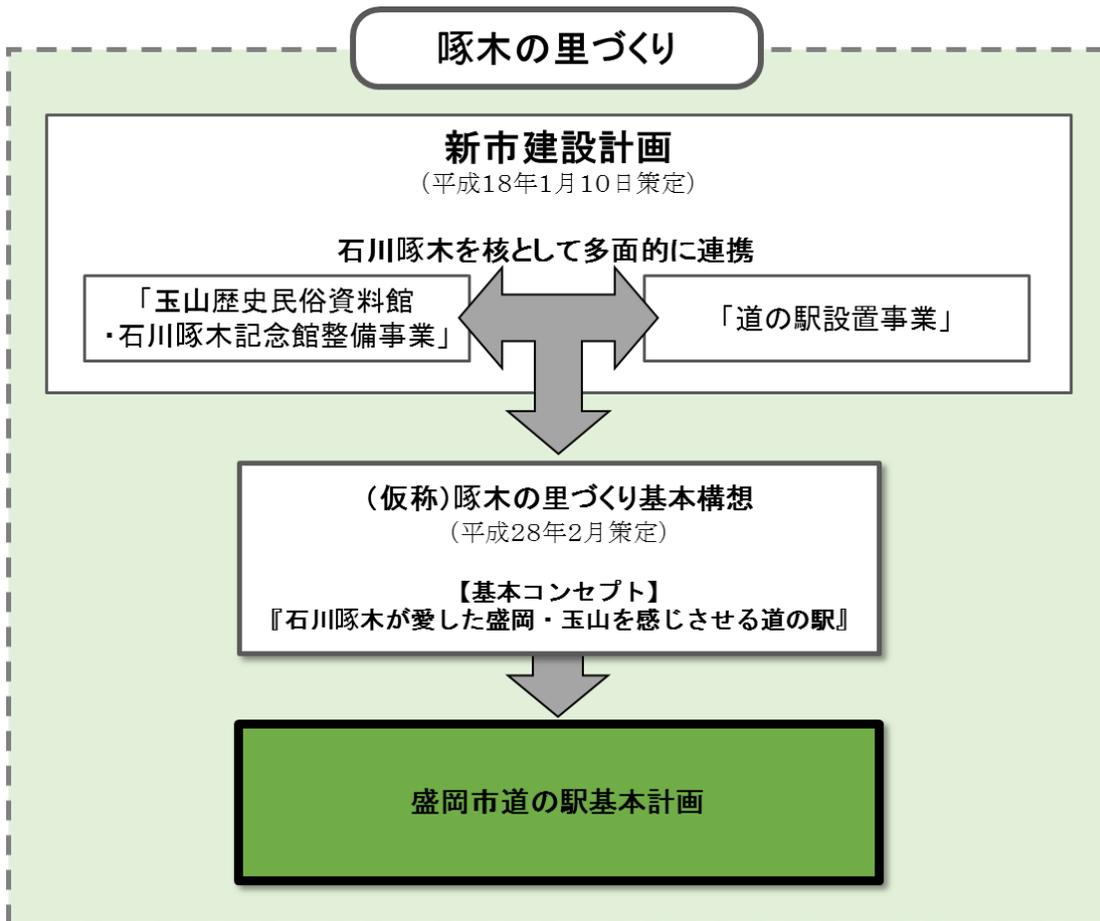
1-2 盛岡市の道の駅構想・計画の背景

国道4号渋民バイパスへの道の駅整備事業は、平成5年度から実施の検討が進められ、平成18年1月10日策定の「新市建設計画」において、「豊かで活力あるまちをつくる産業の振興」を目的として整備が位置付けられています。

盛岡市初の道の駅として観光物産の拠点を目指し、交流人口の拡大等を図るとともに、隣接地に「玉山歴史民俗資料館・石川啄木記念館整備事業」も予定されていることから、整備される施設群が相乗効果を発揮できるよう、郷土の歌人である石川啄木を核として多面的に連携した整備とするため平成28年2月に「(仮称)啄木の里づくり基本構想(以下、基本構想といいます。)」が策定されました。

「盛岡市道の駅基本計画(以下、本計画といいます。)」では、基本構想の位置づけを踏まえるとともに、道の駅の基本機能である「休憩機能」、「情報発信機能」、「地域連携機能」、「防災機能」を併せ持ちながら、より多くの方に「盛岡・玉山」の魅力を伝える道の駅の整備を検討していきます。

盛岡市「道の駅」基本計画の位置づけ



1-3 本計画の目的

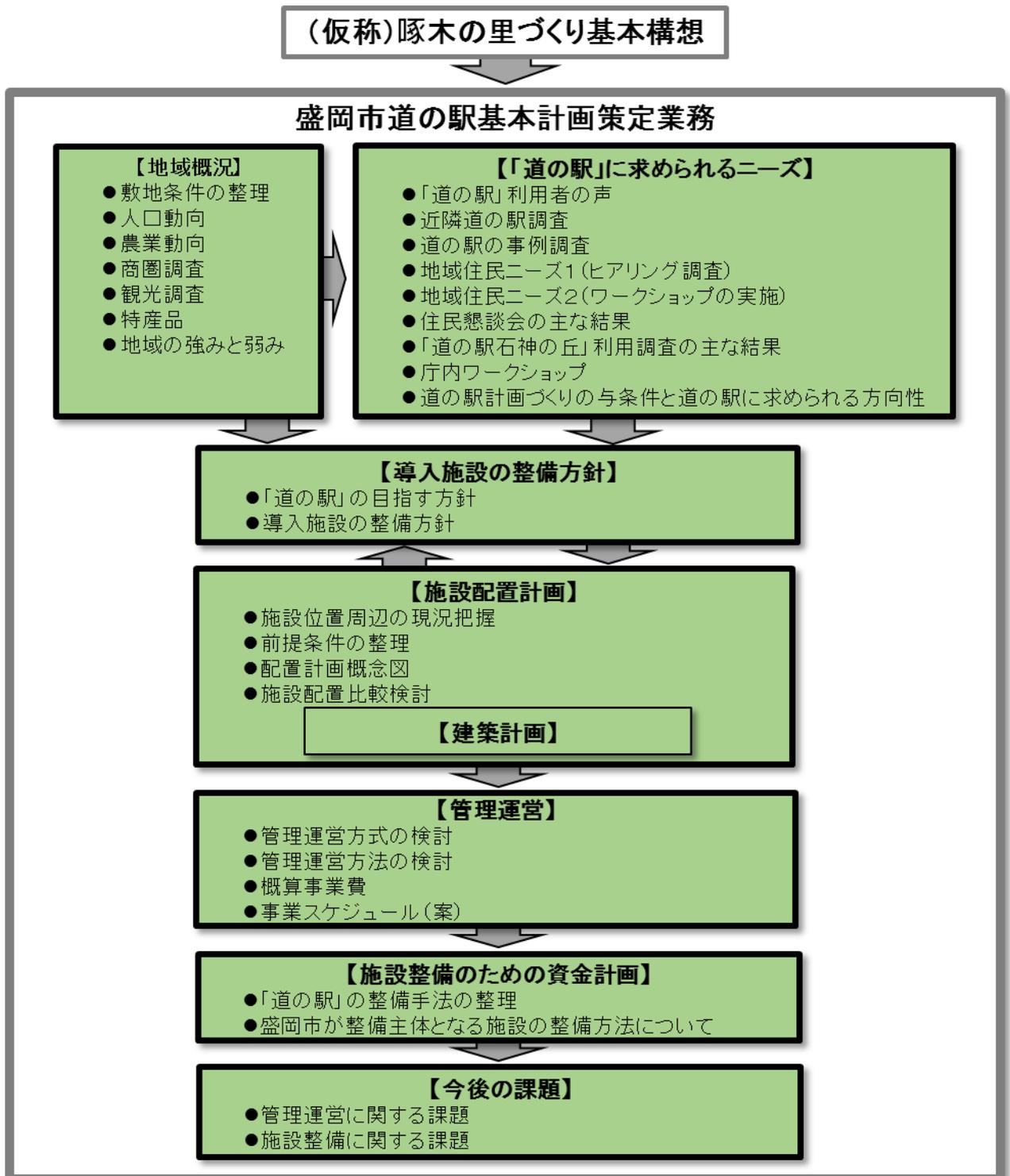
基本構想では、ターゲットや必要となる機能、整備メニュー等の検討を行い、道の駅整備に関するコンセプトを「石川啄木が愛した盛岡・玉山を感じさせる道の駅」と設定しています。

本計画では、基本構想及び地域の課題、ヒアリングやワークショップによる意見、道の駅に求められるニーズ等を踏まえて、コンセプト整理、導入施設の内容や規模、配置計画、管理運営の望ましい形態等の検討を行います。

本計画は「道の駅整備方針検討会」へ検討内容を諮り、助言を踏まえて策定するものです。



盛岡市道の駅基本計画策定の流れは以下のとおりです。



【地域の様々な創意工夫による取組の事例】

キーワード	取組内容
厚生・福祉	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防教室、健康教室
住民サービス	<ul style="list-style-type: none"> バスターミナル設置 温泉施設への無料送迎 住民票や各証明交付等の行政サービス提供 宅配、安否確認サービス
地域コミュニティ活性化	<ul style="list-style-type: none"> 郷土料理、特産品加工の体験学習 U I J ターンの情報発信・相談窓口 職業体験を通じた移住促進
教育・学習	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅農園での体験学習 物流経済、地域産業、郷土史などの学習 環境保全学習
文化振興	<ul style="list-style-type: none"> 地域文化の発信 郷土芸能の発表
観光振興	<ul style="list-style-type: none"> パッケージ化した地域観光資源の旅行会社への販売



健康教室
(道の駅 小豆島オリーブ公園)



宅配サービス
(道の駅 酒谷)



郷土料理の体験学習
(道の駅 酒谷)

◆ 観光資源をパッケージ化し、都市部の旅行代理店へ販売



地域の様々な観光資源



例)日帰りバスツアー誘致



**観光バス立寄り台数
約3000台(9万人)**

出典: 徳島県観光振興課観光統計(2019年)

びわ狩り
イチゴ狩り
レストラン
体験農家
観光名所 等

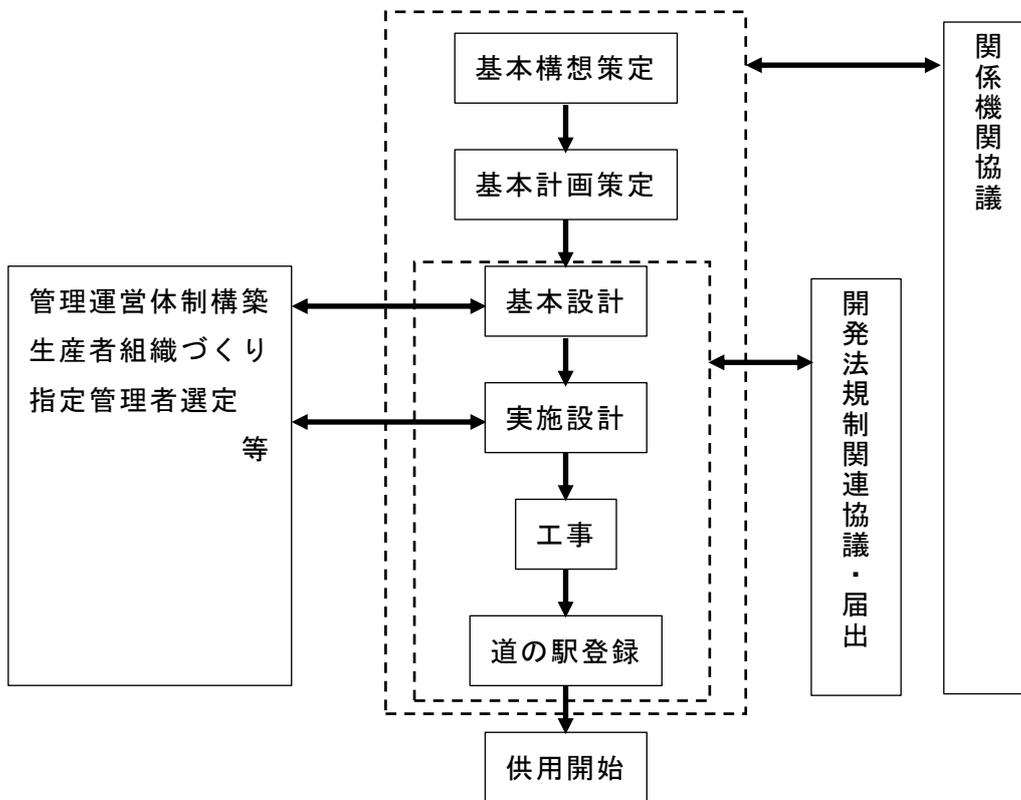
地域100事業者

観光資源のパッケージ化 (道の駅 とみうら)

※写真はいずれも国土交通省HPより

1-4 道の駅整備の流れ

道の駅整備の流れは以下のとおりです。



第2章 「地域の現状」と「道の駅整備の目的」

2-1 「地域の現状」・「盛岡市「道の駅」の目的」

とまらない若者の流出、少子高齢・人口減少の進行、厳しい経済環境など地域の将来が見通しにくい状況が続いています。

今、全国に1,100以上もの道の駅が整備され、道路利用者や地域の方々のための「休憩機能」、「情報発信機能」、活力ある地域づくりを行うための「地域連携機能」の3つの機能で、地域振興、経済の活性化に一定の効果をあげています。

国道4号渋民バイパスが全線開通した今、道の駅の持つ機能を活用し、地域課題に対応しながら、自らが有する魅力を発信することにより、地方創生の拠点として、地域住民を含めた多くの人々が交流し、地域経済を活性化し、

－将来にわたり持続可能な地域を創る－ ことを

盛岡市“道の駅”の目的に位置づけます。

2-2 盛岡市「道の駅」の目指すもの

- ① 道路利用者の安全で快適な通行に貢献する
～盛岡の北の玄関口として、多くの人に、おもてなしの心、安らぎとくつろぎ、疲れを癒すことのできる時間と空間を提供し、安全で快適な通行に貢献～
- ② 地域経済の振興に寄与する
～食、伝統文化、眺望などの資源を発掘し、磨き上げ、活用し、起業や地域ビジネス育成、雇用創出などで地域経済の振興に寄与～
- ③ 次代を担う人材を育てる
～若者や女性など様々な人の挑戦を支援し、将来のまちづくりを担う人材の育成を図る～
- ④ 元気な地域をつくる
～老若男女が集まり交流し活躍し、賑わいと活気のある空間とし、地域文化発信、産業・経済の振興を図り、元気な地域をつくる～
- ⑤ 世界に向けて「盛岡・玉山」を発信する
～道の駅から、盛岡・玉山を世界に発信する。“おもてなしの心”、“多様な文化”、“自然の魅力”等を伝え「世界につながるまち盛岡」をつくる～

2-3 盛岡市「道の駅」の基本コンセプト

これら地域の現状と、盛岡市の「道の駅」の整備目的や、次章以降に後述する「地域概況、ニーズ、ワークショップ・住民懇談会などの意見、庁内検討の結果」から、盛岡市初の道の駅として地域活性化の拠点はもとより玉山地域の地域拠点、そして石川啄木の利活用拠点としての方向づけが求められていることを受け、道の駅を将来にわたり持続可能な地域を創るための手段・ツール・ステージと位置づけ、道の駅の基本機能に郷土の歌人である石川啄木を中核イメージとして活用し、盛岡・玉山を「知って」「見て」「食べて」「買って」「遊び」何度でも訪れたい場所を目指すため、次のとおり「基本コンセプト（案）」を設定しました。

■基本コンセプト（案）

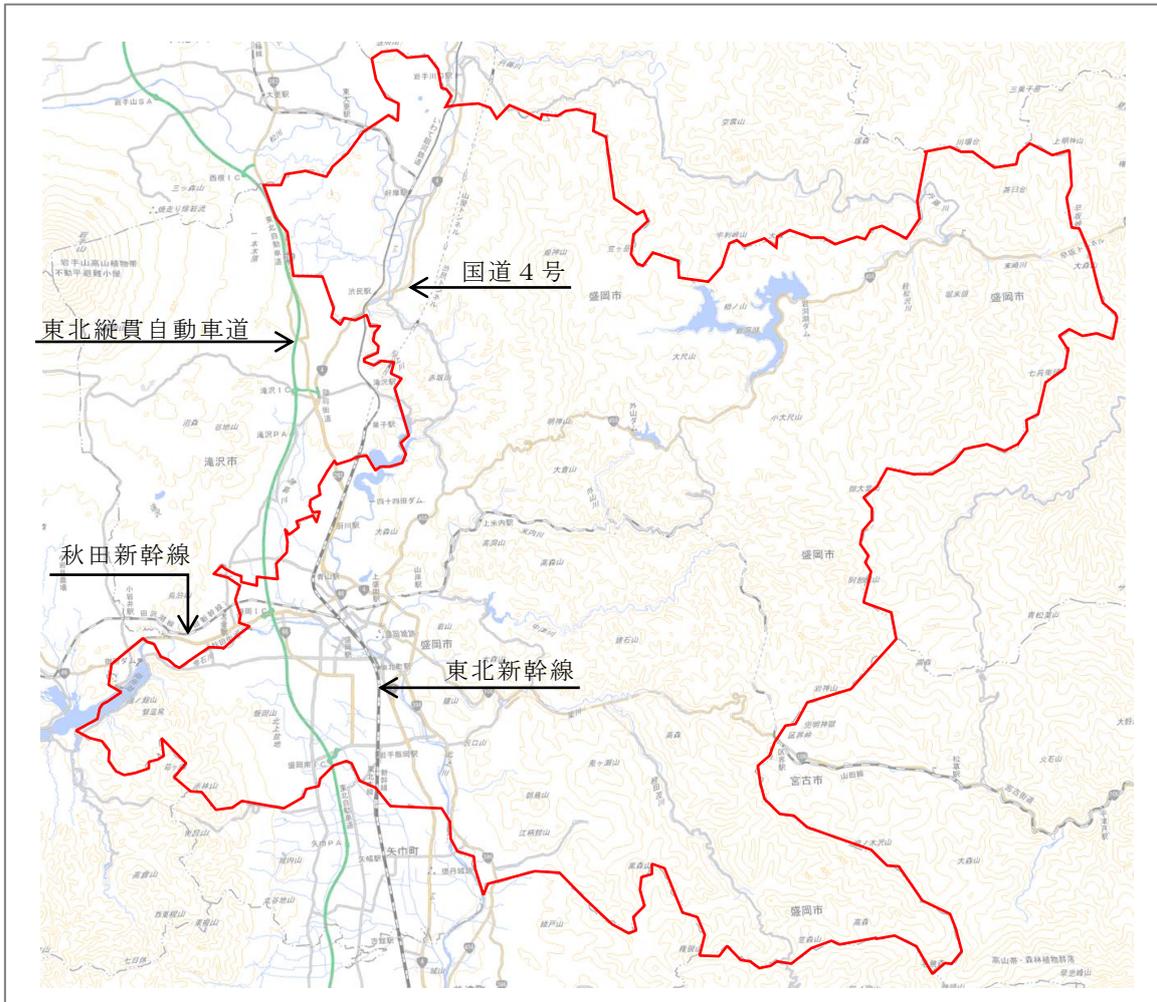
ゆめ
道の駅は、私たちの未来を創る希望のステージ
～ 石川啄木が愛した盛岡・玉山を感じられる道の駅 ～

第3章 地域概況

3-1 敷地条件の整理

3-1-1 交通現況

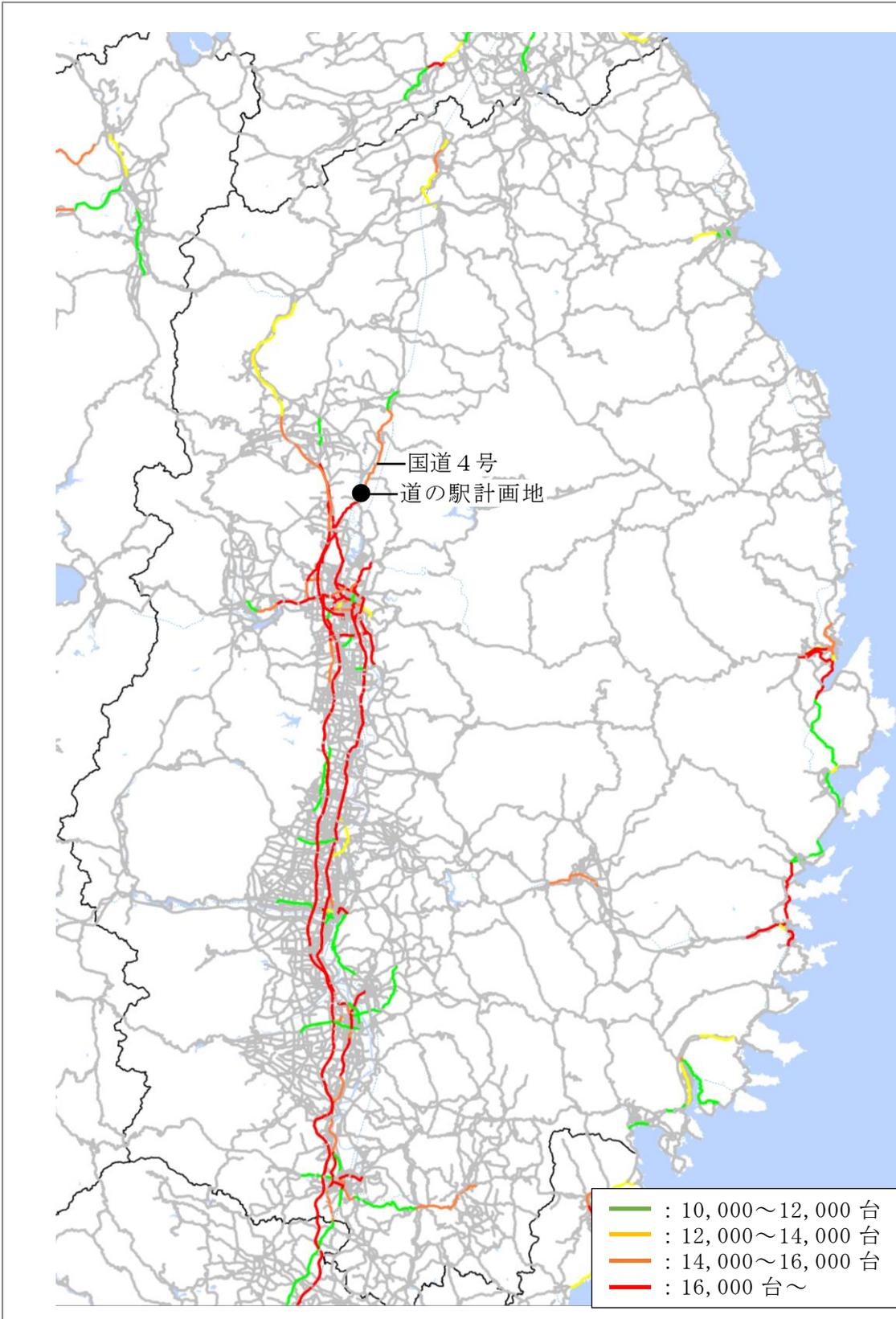
本市は東北新幹線、秋田新幹線、東北縦貫自動車道、国道4号等の主要な交通の結節点として岩手県のみならず北東北の玄関口・交流拠点都市としての役割を担っています。



資料：国土地理院ウェブサイト地図を用いて作成

第3章 地域概況

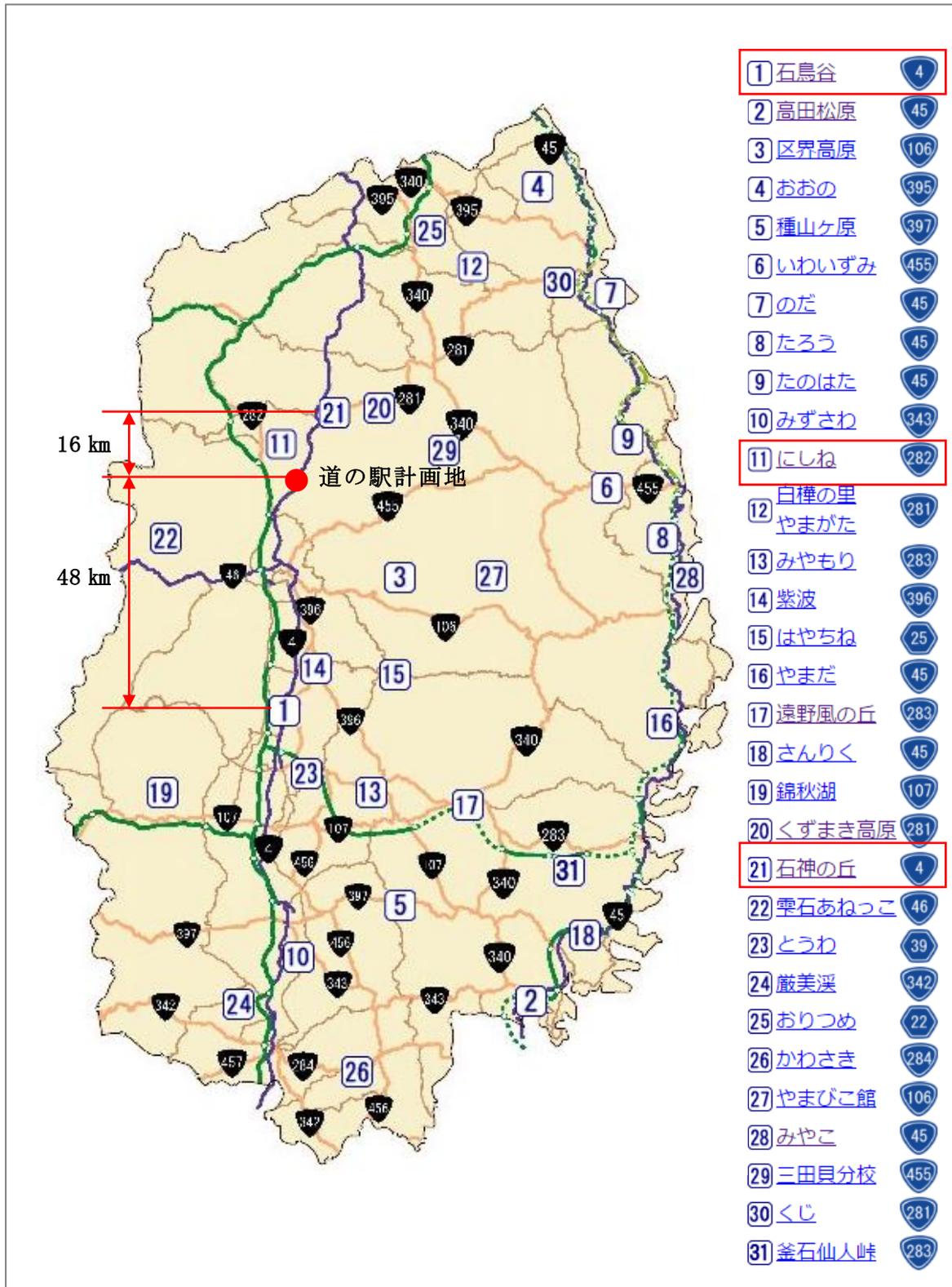
また、計画地前面の国道4号は県内でも有数の交通量であり平日24時間で10,000台/日以上の交通量があります。



資料：H22 道路交通センサス

第3章 地域概況

岩手県内の国道4号沿線には道の駅が少なく（「石鳥谷」と「石神の丘」のみ）、計画予定地と最も近い「石神の丘」で16km離れており休憩施設が少ない状態です。ただし、国道4号沿線ではありませんが、計画地に近い道の駅として「にしね」があります。



資料：H22 道路交通センサス

3-1-2 法規制と土地利用状況

(1) 森林地域

道の駅計画地は「森林地域」の「県有林・民有林」に指定されています。



※個別の確認により計画地のうち、国有地（国土交通省所管）は林地開発規制対象から除外されています。

資料：いわてデジタルマップ

(2) 都市計画区域

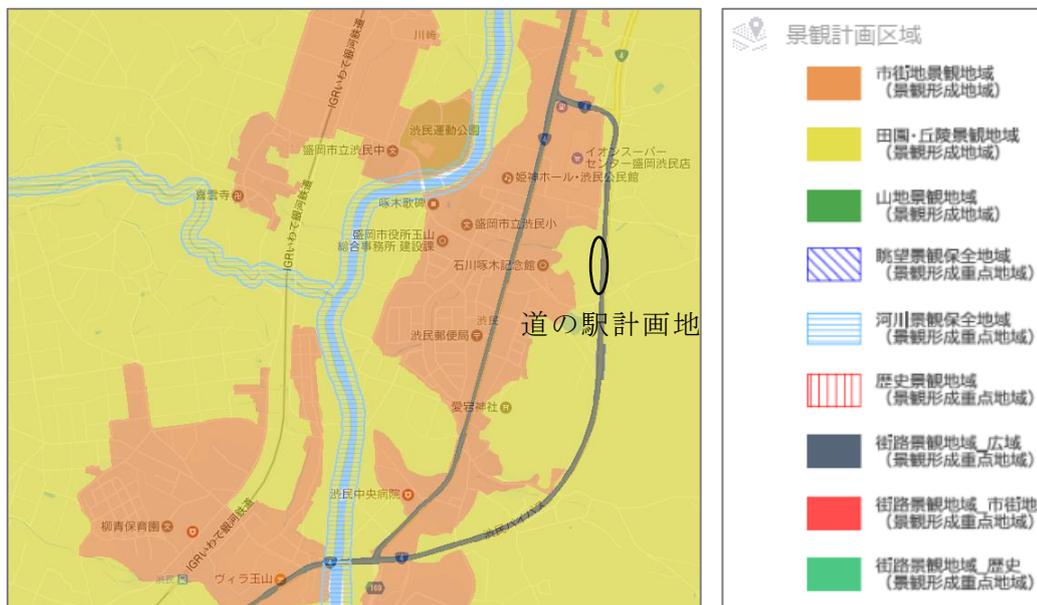
道の駅計画地は「市街化調整区域」に指定されています。



資料：盛岡市土地情報提供システム

(3) 景観計画区域

道の駅計画地は「景観計画区域」の「田園・丘陵景観地域（景観形成地域）」「街路景観地域広域（景観形成重点地域）」に指定されています。



資料：盛岡市土地情報提供システム

3-1-3 土地利用の現状

計画地の主な土地利用の現状は山林となっています。隣接地には石川啄木記念館、旧尋常小学校、宝徳寺、渋民保育園があります。特に石川啄木記念館は再整備を予定しており、玉山歴史民俗資料館との一体的な整備が計画されています。

また、計画地周辺からは岩手山と姫神山の眺望を望むことができ、地域の貴重な景観資源となっています。



3-1-4 供給処理施設の状況

(1)上水道

- 計画地に隣接する洪民保育園前の市道洪民鶴飼線に盛岡市で管理・供給されている既設配水管（φ150）が敷設されており、適正な水圧で計画地に供給可能と判断されます。

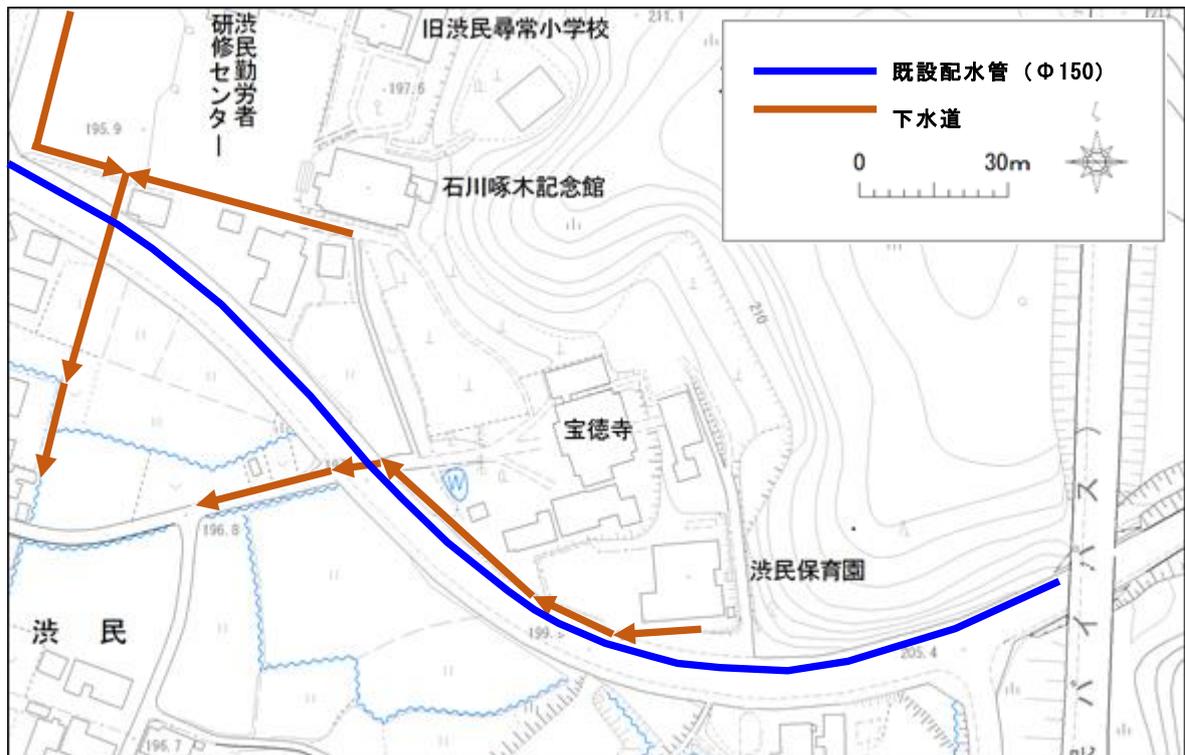
(2)下水道

- 隣接する石川啄木記念館及び洪民保育園まで、盛岡公共下水道の事業計画区域となっており汚水（下水）管が敷設されており、盛岡市上下水道局と利用の協議を行っております。

(3)ガス

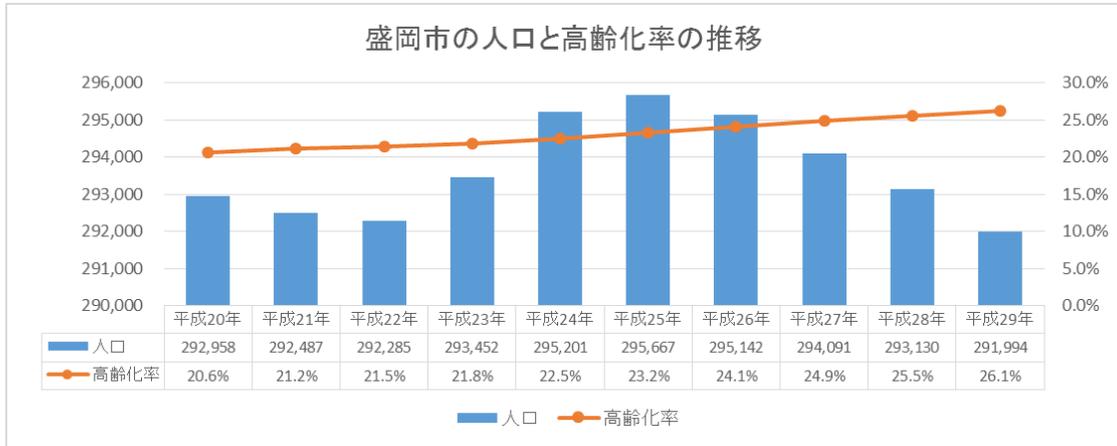
- 都市ガスは供給されておられません。

供給施設埋設図

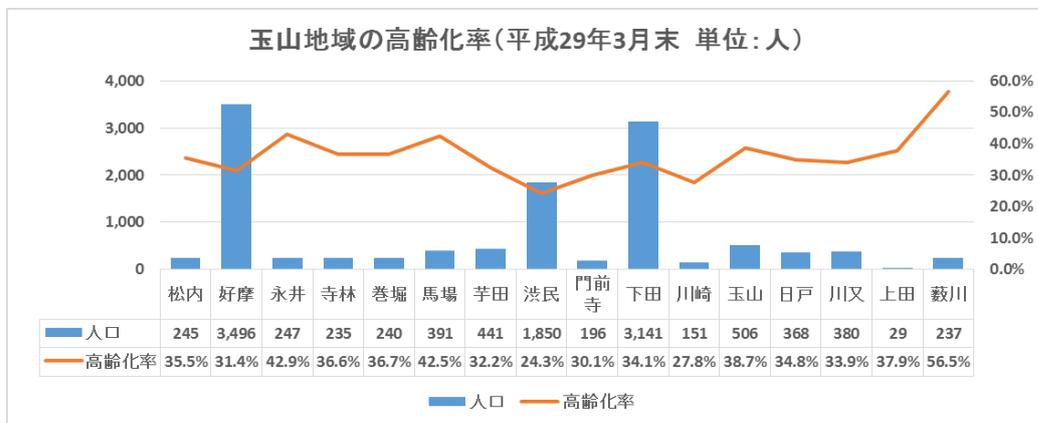
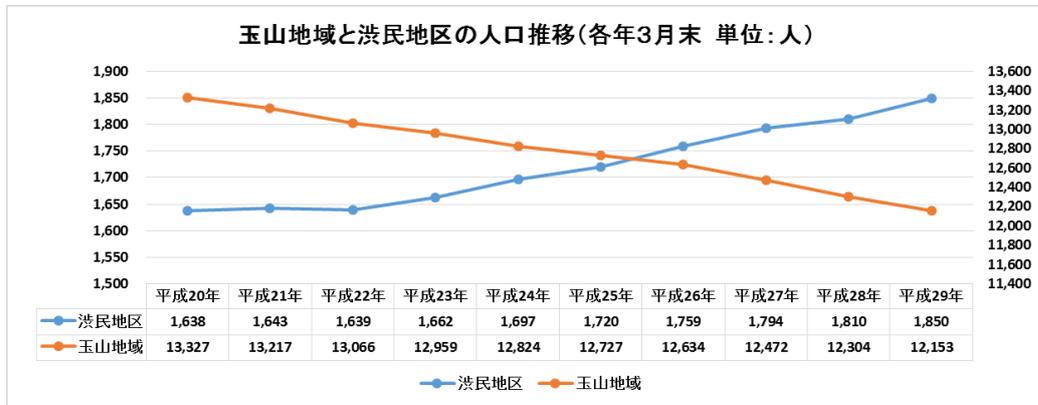


3-2 人口動向

盛岡市の人口は平成22年にかけて減少し、その後、増加に転じて平成25年にピークを迎え再び減少傾向にあります。人口に増減がある一方で高齢化率は一貫して増加傾向にあります。平成29年時点で人口291,994人、高齢化率26.1%となっています。

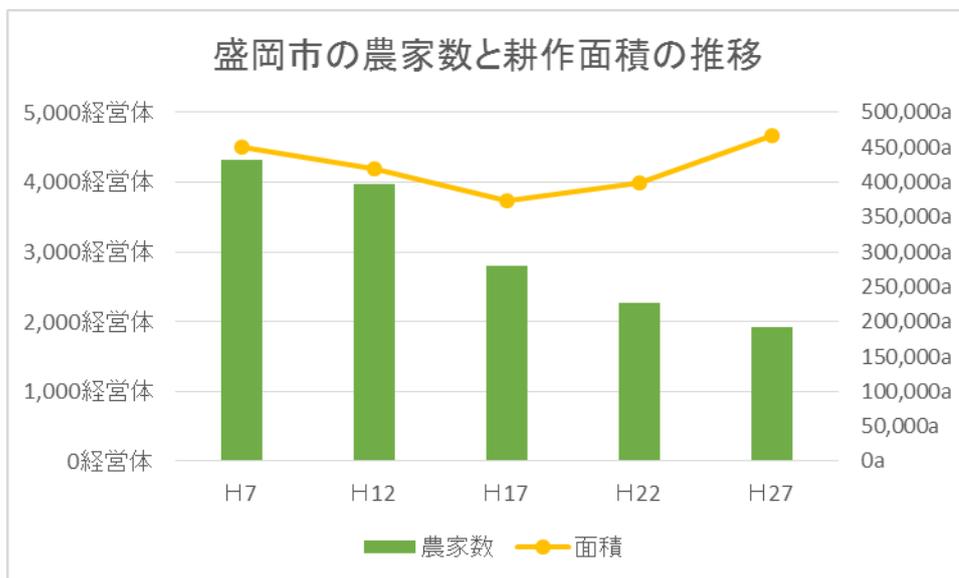


玉山地域全体の人口は減少傾向で、高齢化率は32.9%となっています。一方、渋民地区の人口は増加傾向にあり、高齢化率は24.3%となっています（平成29年3月時点）。また、玉山地域の人口の69.8%は「好摩地区」「渋民地区」「下田地区」に集中しています。



3-3 農業動向

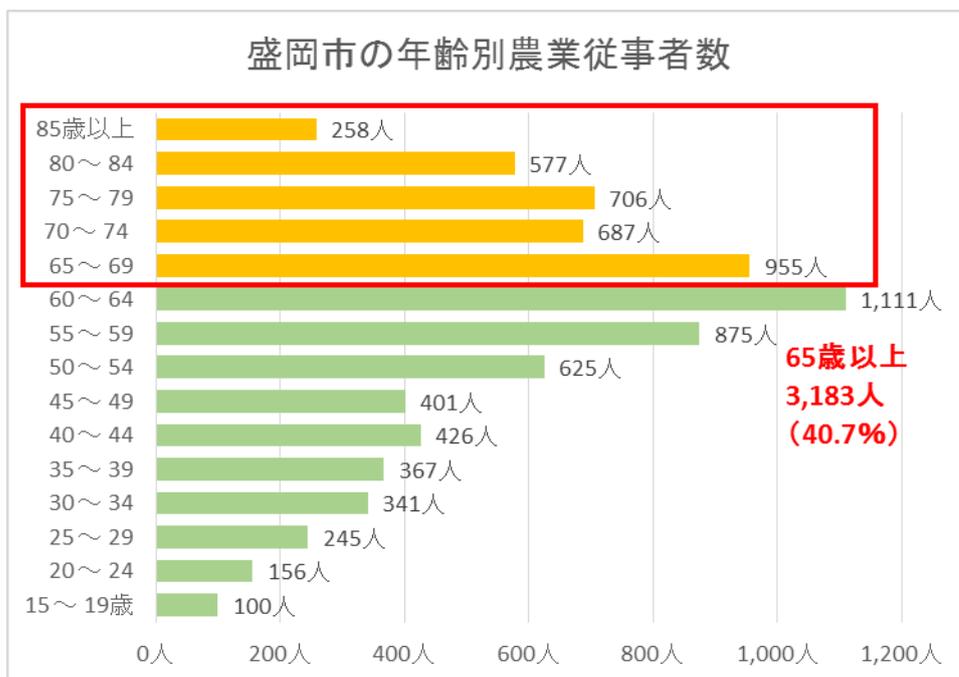
本市の農家数は平成7年以降、減少傾向にあります。耕作面積は平成17年以降増加傾向にあります。



	H7	H12	H17	H22	H27
農家数	4,327経営体	3,975経営体	2,793経営体	2,269経営体	1,927経営体
面積	450,871a	419,596a	373,300a	398,600a	466,438a

資料：盛岡市統計書（平成26年版）

また、農業従事者数では65歳以上の従事者が3,183人で全体の40.7%を占め、農業従事者の高齢化が懸念されます。

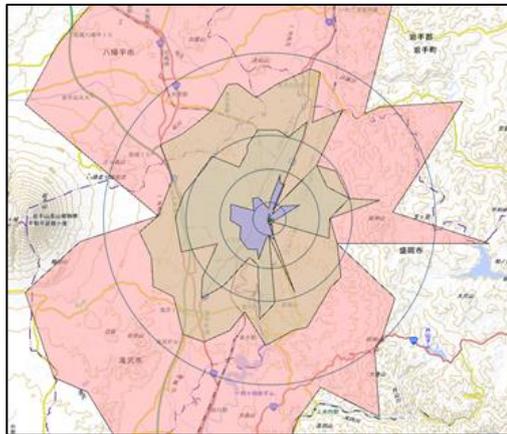


資料：世界農林業センサス（2015）

3-4 商圏調査

(1) 渋民地区の商圏

道の駅計画地周辺の日常的な利用が見込まれる商圏をみると、大型食品スーパーマーケット（商圏距離 2 km～5 km 以下で10,000人～30,000人）が立地可能な1次商圏を形成しています。



商圏同心円内の人口

1km	1,084人
3km	5,732人
5km	12,054人
10km	50,496人

商圏同心円内の概要

1km	渋民を中心とした地域。西は渋民運動公園が含まれる
3km	渋民全域と下田、好摩の一部。好摩駅・渋民駅が含まれる
5km	下田、好摩、馬場のほぼ全域。滝沢市の北部一部が含まれる
10km	西北は八幡平市西根、北は岩手町の一部、西南は滝沢市の北部、東は姫神山が含まれる

※総務省統計局、地理情報システム j SATMAP による分析

※中心点は計画地、同心円は内側から 1km、3km、5km、10km を表し、網掛けは車到達時間の同心円で内側から 5分、10分、15分、30分を表す。

(2) 商圏人口と商業施設等

① 同心円距離・車到達時間と年齢構成比

日常的な利用が見込まれる商圏人口をみると、計画地に近いほど老年人口（65歳以上）の割合が高く、生産年齢人口（15～64歳）の割合が低い傾向にあることがわかります。一方で年少人口（0～14歳）の割合は計画地に近いほど高い傾向にあります。

	同心円距離				車到達時間（40km/h）			
	1 Km	3 Km	5 Km	10Km	5分	10分	15分	30分
人口総数(人)	1,084	5,732	12,054	50,496	2,644	10,608	26,414	264,911
0～14歳 (%)	17.71	13.29	12.34	13.40	13.88	12.23	12.86	12.61
15～64歳 (%)	54.89	59.32	61.50	66.56	60.48	61.45	64.90	64.83
65歳以上 (%)	27.21	27.30	25.97	19.57	25.57	26.11	21.78	21.54
15歳以上就業者 (%)	44.93	47.87	47.83	48.85	47.54	47.75	48.56	46.64
75歳以上 (%)	17.62	16.22	14.78	9.74	14.64	14.65	11.60	10.76

資料：j S T A T M A P、平成 22 年国勢調査

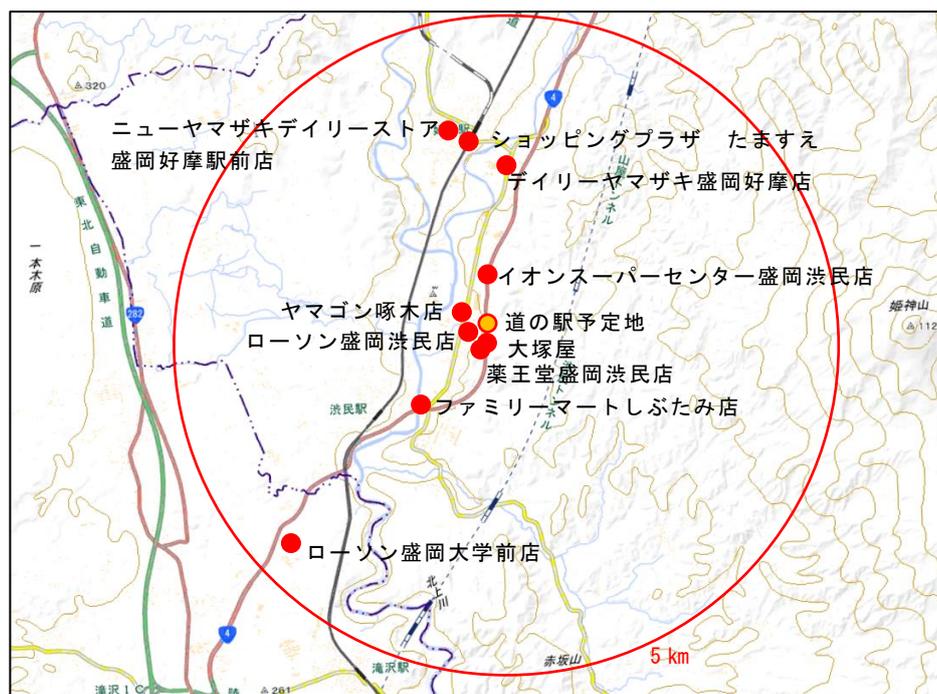
②道の駅計画地と周辺店舗

日常的な利用が見込まれる商圈の中で道の駅と重複する機能を有する飲食店、スーパー、コンビニエンスストアの距離を以下に整理しました。

近隣には「イオンスーパーセンター盛岡渋民店」がありますが渋民バイパス（国道4号）には面していません。また、一般県道渋民田頭線（旧国道4号）沿線に「デイリーヤマザキ盛岡好摩店」「ローソン盛岡渋民店」「酒コンビニエンス大塚屋」がありますが渋民バイパス沿線にはコンビニエンスストアは立地していません。

【スーパー・コンビニエンスストア】

店舗名	距離
イオンスーパーセンター盛岡渋民店	314m
ヤマゴン啄木店	343m
ローソン盛岡渋民店	1.0km
酒コンビニエンス大塚屋	1.2km
薬王堂 盛岡渋民店	1.2km
ファミリーマート しぶたみ店	1.8km
デイリーヤマザキ 盛岡好摩店	2.3km
ショッピングプラザ たますえ	2.9 km
ニューヤマザキデイリーストア盛岡好摩駅前店	3.1km
ローソン 盛岡大学前店	4.7km

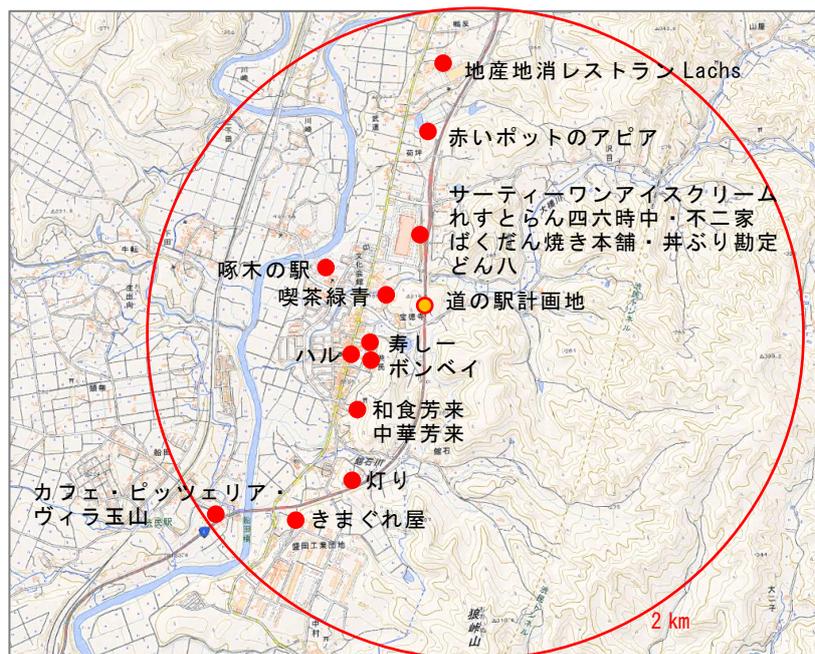


資料：国土地理院ウェブサイト地図を用いて作成

【飲食店】

イオンスーパーセンター盛岡渋民店内フードコート内に4店舗が出店しています。近隣では一般県道渋民田頭線沿線に中華料理店及び和食食堂が各1店舗、渋民郵便局近くに寿司屋が1店舗立地しています。渋民バイパス（国道4号）沿線の2km圏内にはカフェが1店舗立地していますが近接地にはありません。

店舗名	ジャンル	距離
喫茶 緑青	喫茶店	236m
イオンスーパーセンター内		314m
サーティワンアイスクリーム	アイスクリーム	
ばくだん焼き本舗	焼物	
井ぶり勘定	井ぶり・カレー・そば	
どん八	海鮮丼・うどん	
れすとらん四六時中	ファミレス	
不二家	洋菓子	
ボンベイ	洋食	
寿しー	寿司	544m
ハル	居酒屋	644m
中華 芳来	中華	989m
和食 芳来	和食	989m
赤いポットのアピア	洋食	1.1km
地産地消レストラン Lachs（ラックス）	レストラン	1.2km
灯り	居酒屋	1.3km
きまぐれ屋	居酒屋	1.7km
カフェ・ピッツェリア・ヴィラ玉山	カフェ・イタリア料理	1.9km



資料：国土地理院ウェブサイト地図を用いて作成

【ホテル・旅館】

計画地周辺の宿泊施設は西根に向かう国道282号沿線にある「桃屋旅館」「畠山旅館」「ユートランド姫神」があり、一般県道渋民田頭線沿線には民宿「竹乃屋」があります。国道4号沿線には宿泊施設はありません。

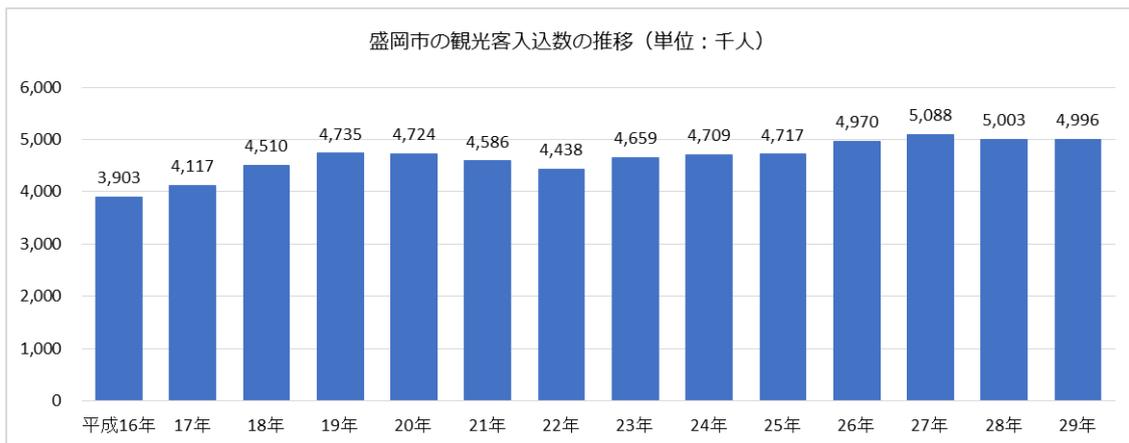


資料：国土地理院ウェブサイト地図を用いて作成

3-5 観光動向

(1) 入込客数

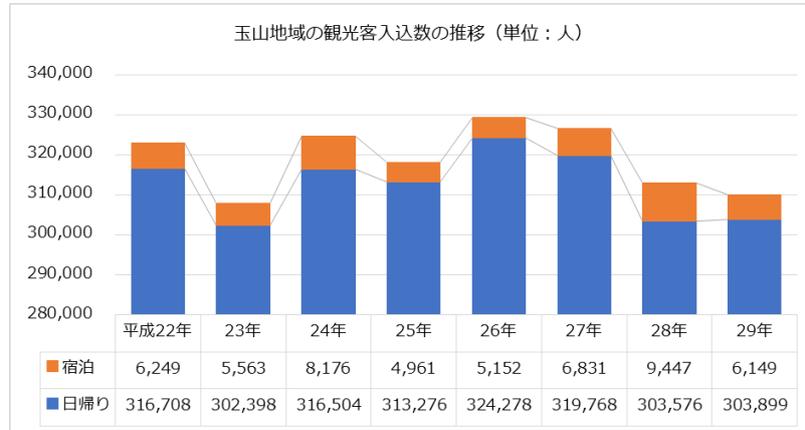
平成27年の本市の観光客入込数は508万人で、大型観光キャンペーンや平成25年に放映されたドラマ「あまちゃん」の波及効果などにより、平成23年から5年連続の増加となっていますが、平成28年以降は減少に転じています。



資料：盛岡市

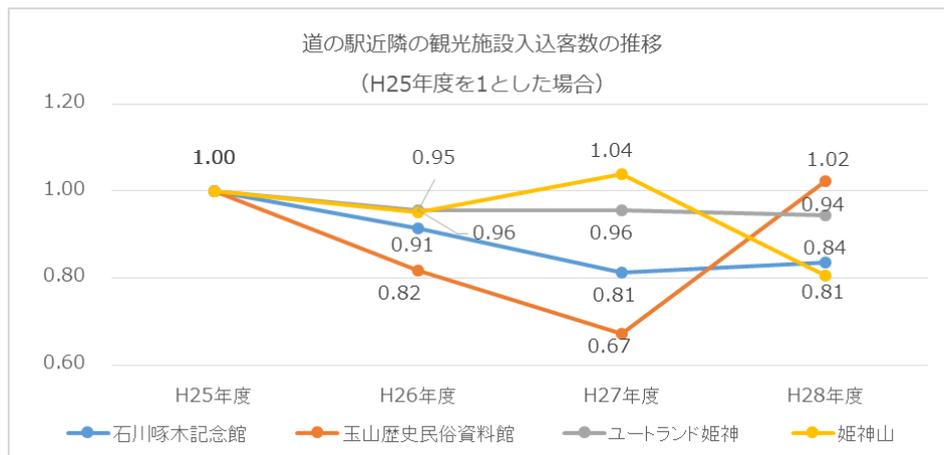
第3章 地域概況

玉山地域への観光客は平成23年度にやや落ち込んだものの、その後回復傾向にありましたが、平成28年以降は再び減少しています。また、日帰り客がその多くを占め宿泊客数（観光客のみでビジネス客等は含まない）は少ない状況にあります。



資料：盛岡市

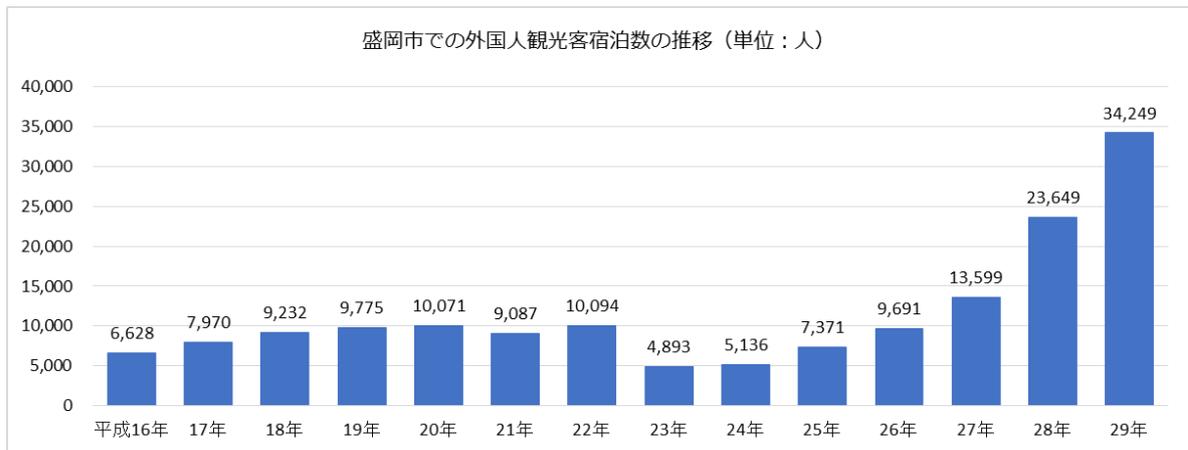
道の駅周辺の観光施設への入込数は姫神山を除いて減少傾向にありますが、玉山歴史民俗資料館は平成28年度に増加に転じています。



	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
石川啄木記念館	13,024 人	11,906 人	10,592 人	10,889 人
玉山歴史民俗資料館	131 人	107 人	88 人	134 人
ユートランド姫神	208,431 人	199,417 人	199,388 人	196,822 人
姫神山	17,499 人	16,659 人	18,201 人	14,087 人

資料：盛岡市

外国人観光客の宿泊数は平成23年は東日本大震災の影響で前年の半数以下まで落ち込みましたが、その後回復し、平成27年以降は震災以前よりも増加しています。



資料：盛岡市

3-6 特産品

(1)食

盛岡市周辺の食に関する特産品として地酒やワイン、「盛岡三大麺」と呼ばれる「盛岡冷麺」「盛岡じゃじゃ麺」「わんこそば」や「盛岡駄菓子」「薺川そば」「ニジマスルイベ」「盛岡りんご」等の農産物が特産品としてあげられます。



資料：（公財）盛岡観光コンベンション協会HP

また、盛岡市内の事業所で製造された製品または盛岡市内で収穫される農産物のうち、認証基準を満たしたものについて「盛岡特産品ブランド」として認証し「安心・安全・高品質なメイドイン盛岡」の特産品を全国に発信しています。

(2)工芸品

盛岡周辺の工芸に関する特産品として、「南部鉄器」「南部桐たんす」「南部桐下駄」等があげられます。



▲南部鉄器

▲南部桐たんす

▲南部桐下駄

資料：(公財)盛岡観光コンベンション協会HP

3-7 地域の強みと弱み(地域概況のまとめ)

文献調査及び現況調査を踏まえ、地域の強みと弱みを以下のように整理しました。

(1)道の駅計画地の強み

①立地	<ul style="list-style-type: none"> 交通量の多い渋民バイパス沿線に立地している 石川啄木記念館・宝徳寺・旧尋常小学校等の文化施設と近接している 石鳥谷の道の駅から64 kmと離れており、休憩施設が少ない
②文化	<ul style="list-style-type: none"> 石川啄木という郷土の歌人が存在する
③景観	<ul style="list-style-type: none"> 岩手山、姫神山の眺望という計画地ならではの素晴らしい景観資源を有する
④人口	<ul style="list-style-type: none"> 渋民地区の人口は増加傾向にあり、高齢化率は盛岡市全体よりも低い 大型食品スーパーマーケットも立地可能な圏内人口を有する 計画地に近いほど年少人口割合が高い
⑤特産品	<ul style="list-style-type: none"> 「薺川そば」や「ニジマスルイベ」等の加工品や「盛岡りんご」等の農産物がある 「南部鉄器」「南部桐たんす」「南部桐下駄」等の工芸品がある 「盛岡特産品ブランド」という認証制度を導入している
⑥外部要因	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅に求められる機能が多様化してきている 盛岡市初の道の駅である

これらの強みを生かして、道の駅では文化施設との連携、眺望を楽しむことのできる場の整備、若い世代の積極的な雇用、新たな道の駅機能の検討を進めていくことが求められます。

(2)道の駅計画地の弱み

①人口	<ul style="list-style-type: none"> 盛岡市、玉山地域の人口は減少傾向にあり、高齢化率は上昇傾向にある 計画地に近いほど老年人口の割合が高く、生産年齢人口の割合が低い
②農業	<ul style="list-style-type: none"> 農業従事者の高齢化が懸念される
②周辺施設	<ul style="list-style-type: none"> 周辺に宿泊施設が少ない 計画地周辺に飲食店が少ない 渋民バイパス沿線にコンビニ等の道路利用者が立寄やすい施設がない 近傍に産直施設が整備されている

これらの弱みを逆に強みに転換するために、宿泊施設等との連携、岩手山の眺望を楽しみながらゆったりと食事ができるレストラン等の整備、道路利用者がゆったりとくつろげる休憩施設の整備、近傍産直施設との連携等が考えられます。

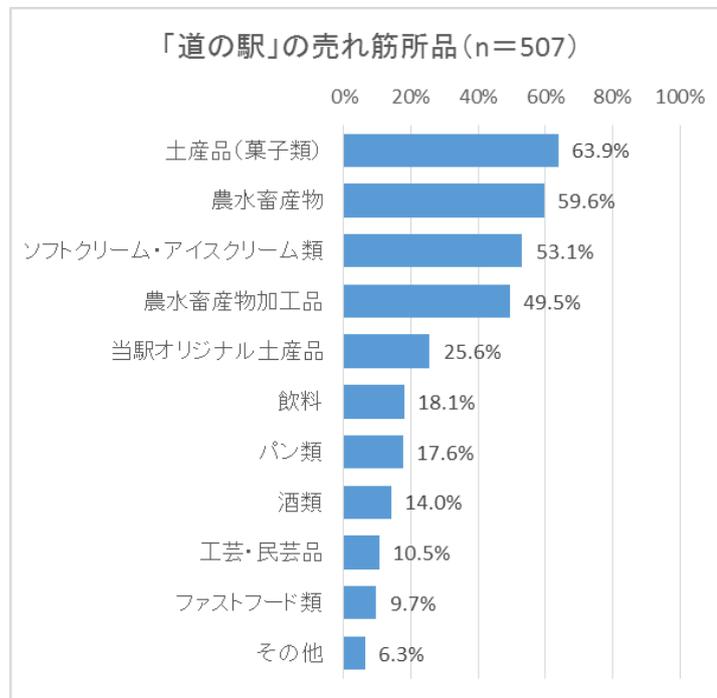
第4章 「道の駅」に求められるニーズ

4-1 「道の駅」利用者の声～アンケート調査から

平成25年度に「法政大学地域研究センター」が全国1,004ヶ所の道の駅を対象として行ったアンケート集計結果（回収数：507件、回収率：50.5%）をもとに、道の駅に求められるニーズを整理しました。

(1) 「道の駅」の売れ筋商品(複数回答)

道の駅の売れ筋商品を見てみると、土産品（菓子類）63.9%、農水畜産物59.6%、ソフトクリーム・アイスクリーム類53.1%、農水畜産物加工品49.5%となっています。産直品だけでなく日持ちのする土産品や加工品、その場で楽しむことのできる軽食を道の駅に取り入れることで、売り上げ向上の可能性が見込まれます。



4-2 近隣道の駅調査

本道の駅整備の参考とするため、近隣道の駅調査を行いました。調査対象は以下のとおりです。

名称	路線
「道の駅」A	国道
「道の駅」B	国道
「道の駅」C	国道

(1) 利用者の属性

道の駅A、道の駅Cでは利用者の60～70%を地域住民（近隣市町村含む）が、道の駅Bでは地域住民と通過交通者が利用者の60%を占めていることから、観光客だけではなく身近な地域住民や通過交通者を想定した道の駅整備が重要だということがうかがえます。

	地域住民	通過交通者	観光客
道の駅A	60%		40%
道の駅B	30%	30%	40%
道の駅C	60～70%（平日） 50%（休日）		30～40%（平日） 50%（休日）

(2) 利用の多い施設

利用が多い施設の上位は、全ての道の駅でトイレ、産直（売店）、レストランという順番になっており、これらの施設の動線を円滑に確保することが建物配置上で重要であり、利用者の少ない施設へも自然と動線が向くようにこれらの施設をうまく配置することが求められます。また、利用者の属性で「地域住民」が多いことを踏まえると、地域の要望を反映させた産直（売店）やレストラン等の飲食コーナーを整備することが重要だといえます。

	1位	2位	3位
道の駅A	トイレ	売店	レストラン
道の駅B	トイレ	産直・物産	レストラン
道の駅C	トイレ	産直	レストラン

(3) 売り上げの多い商品

道の駅B、道の駅Cでは利用者の多くが身近な地域住民や通過交通者ということを反映してか、麺類や丼ものといった一般的なメニューの売り上げが高くなっています。道の駅Aでは酒を加工した商品の特産品として取り扱っており、その売り上げが高くなっています。

	売り上げの多い商品
道の駅A	<ul style="list-style-type: none"> • ケーキ、日本酒
道の駅B	<ul style="list-style-type: none"> • 団子、麺類、丼もの
道の駅C	<ul style="list-style-type: none"> • 野菜、ラーメン・カレー等

(4) 成功のポイント

成功のポイントは各道の駅で異なりますが、道の駅に負担のない運営方法の検討や人や物を集まりやすくする企画が必要であることがうかがえます。

	成功のポイント
道の駅A	<ul style="list-style-type: none"> • 少ない人数での運営（的確な事業運営）
道の駅B	<ul style="list-style-type: none"> • トイレ・駐車場・売店を使いやすくする • 商品を委託販売とし、買い取りが発生しない仕組みを検討する
道の駅C	<ul style="list-style-type: none"> • 冬期対策 • 集客イベントの実施 • オリジナル商品の開発 • ディナーや法事膳などの予約営業も行うレストラン

(5) 施設整備や管理運営上の課題(アドバイス)

課題やアドバイスは各道の駅で異なりますが、施設整備後の利用や運営に配慮した施設計画が重要であり、実際の運営者に計画段階から加わってもらうことが望ましいといえます。

	施設整備	管理運営
道の駅A	<ul style="list-style-type: none"> • 施設が分散している • 物産館や伝承館の案内看板がない • 動線を考慮した施設配置 	<ul style="list-style-type: none"> • トイレは衛生的に維持する
道の駅B	<ul style="list-style-type: none"> • バリアフリーに対応していない 	<ul style="list-style-type: none"> • 夜間の安全管理(車中泊等への対策)
道の駅C	<ul style="list-style-type: none"> • バックヤード等、運営者が使い易い施設整備（計画段階からの運営予定者の参加） • 風除室は必須 	<ul style="list-style-type: none"> • 行政との連携・パイプ役になる人の配置 • 駅長の早期決定

(6) 管理運営方式

管理運営方式はいずれも指定管理者制度であり、運営者は第三セクターでした。

4-3 道の駅の事例調査

名称	道の駅「いなわしろ」	道の駅「遠野風の丘」	道の駅「あ・ら・伊達な道の駅」
所在地	福島県耶麻郡猪苗代町   <p>▲レストラン</p> <p>資料：国土地理院ウェブサイト地図を用いて作成</p>	岩手県遠野市   <p>▲建物南側のデッキテラス</p> <p>資料：国土地理院ウェブサイト地図を用いて作成</p>	宮城県大崎市   <p>▲建物前面</p> <p>資料：国土地理院ウェブサイト地図を用いて作成</p>
路線名	国道 115 号	国道 283 号	国道 47 号
駐車場	小型車 164 台、大型車 16 台、身障者用 2 台（国土交通省HP公表数値）	小型車 80 台、大型車 14 台、身障者用 3 台（国土交通省HP公表数値）	小型車 89 台、大型車 11 台、身障者用 2 台（国土交通省HP公表数値）
概要	<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度に国土交通省の重点「道の駅」として選定された。 野菜ソムリエの育成や特産品のブランド化により賑わいの場を創出している。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度に国土交通省の全国モデル「道の駅」として選定された。 平成 10 年のオープンから約 20 年が経過したが年間利用者は 100 万人と人気のある道の駅である。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度に国土交通省の重点「道の駅」として選定された。 北海道当別町との姉妹都市という関係を活用し「ロイズ」のチョコやガラス工芸を販売しており、人気を博している。
盛岡市道の駅整備に向けた参考点	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅から磐梯山の景観がすばらしく、レストラン内から山の景観を楽しみながら食事ができる。 火山噴火や豪雪・地震等のあらゆる災害リスクを抱える磐梯山のふもとに総合防災拠点として整備された。 緊急時には道路利用者や地域住民への緊急避難機能を有し（避難所・ヘリポート・モータープール）、情報発信基地としても機能する。  <p>▲イメージ図であり、今後、変更があります。</p> <p>資料：国土交通省HP</p>	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災時には復旧・救援に向かう自衛隊やボランティアの方々の後方支援拠点として機能した。 観光案内所では「案内人」による情報提供を行っている。 東日本大震災後、大船渡市の水産業者がアンテナショップを出店した（広域的な連携による特産品の販売）。 オープンスペースを市民ギャラリーとして活用し、地域の文化や芸術に関する情報発信を行っている。 建物南側にデッキテラスを配置し、山並みや田園風景といった景観が楽しめる。  <p>▲案内人による情報提供</p>  <p>▲市民ギャラリーでの地域文化・芸術の発信</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源（伊達正宗の史実・文化等）を活かした観光ルートを作成し、地域在住の人的資源（外国人、語り部）を活用した多様な観光案内を実施している。 温泉や地域資源をパッケージ化した独自の観光商品を開発・販売している。  <p>▲宮城県観光統計資料(大崎市調査)</p> <p>資料：国土交通省HP</p>

4-4 地域住民ニーズ1(ヒアリング調査)

(1) ヒアリング対象者

ヒアリングは下記の方々を対象に行いました。

商業関係（3名）	渋民商店会
農業関係（6名）	J A、J A産直会、さくらの里産直会、賢治の土
観光関係（4名）	盛岡観光コンベンション協会、M i c h i - c o 編集者、I G R
地元関係（1名）	自治会連絡協議会
関係機関（2名）	盛岡市歴史文化課

(2) ヒアリング結果

ヒアリング結果を踏まえて、地域の課題、強み、課題解決に向けたキーワード、強みを伸ばすキーワードを以下のとおり整理しました。

玉山地域の課題	課題解決に向けたキーワード
<ul style="list-style-type: none"> 冬期の出荷品確保が困難 新たな商品開発が困難 商店街の高齢化 食べる場所が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> 姉妹都市も含めた広域的な連携 いわて6次産業化支援センター等の活用 若い人を取り込んだ地域全体の活性化 農家レストラン、ジェラートショップ等、地元食材を生かしたレストラン設置
<ul style="list-style-type: none"> 産直が増加し、生産者が産直を選ぶ時代になっている 	<ul style="list-style-type: none"> これまで産直に出荷できなかった方を対象とした集荷機能を備えた産直 常設の産直に加えてトラック市等のイベント開催

玉山地域の強み	強みを伸ばすキーワード
<ul style="list-style-type: none"> 石川啄木 	<ul style="list-style-type: none"> 石川啄木記念館との連携 啄木の物語と合わせた特産品の販売 啄木をキーワードとした他都市との連携 啄木ツアーの開催
<ul style="list-style-type: none"> 啄木弁当等の加工品 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の加工品を道の駅で販売（地域全体の活性化）
<ul style="list-style-type: none"> 盛岡短角牛や雁喰い豆等の特産品 	<ul style="list-style-type: none"> 特産品を生かしたレストランメニューの開発
<ul style="list-style-type: none"> 岩手山、姫神山の眺望に代表される自然景観、自然資源 	<ul style="list-style-type: none"> 眺望を楽しめる場の整備 盛岡の北の玄関口としての観光案内 周遊バス整備の検討

また、道の駅が目指す方向性として「地元客をターゲットとする」「子どもを安心して遊ばせられる場として整備し、集客を促進する」「たくさん物売る場所を目指すのではなく、多くの人立ち寄る場所を目指す」といった意見がありました。

4-5 地域住民ニーズ2(ワークショップの実施)

ヒアリング結果を踏まえて、地域の方々とワークショップを行い、道の駅の整備メニュー等について検討を行いました。

(1)ワークショップ参加メンバー

ワークショップは以下の方々にご参加いただきました。

学識経験者・大学関係者（2名）	岩手県立大学 倉原宗孝教授、岩手県立大学生
商業関係（5名）	渋民商店会
農業関係（5名）	J A、J A産直会、産直いずみ会
観光業関係（3名）	盛岡観光コンベンション協会、M i c h i - c o 編集者、I G R
加工関係（2名）	ひまわり工房、よねちゃん工房
地元関係（3名）	自治会連絡協議会、玉山地域活性化プロジェクト

(2)ワークショップ開催概要

ワークショップは3回実施し、その開催概要は以下のとおりです。

第1回	<ul style="list-style-type: none"> これまでの経緯 道の駅とは 現地確認 事例紹介 	<ul style="list-style-type: none"> ワークショップの目的 地域概況説明 地域等の強み（ウリ）と弱み（課題） 課題解決に向けたキーワード
第2回	<ul style="list-style-type: none"> 施設の規模と配置・造成案 ターゲット・運営者等 	<ul style="list-style-type: none"> 展開事業の補足 優先順位づけ
第3回	<ul style="list-style-type: none"> 施設配置修正案 事業スケジュール案 コンセプト 	<ul style="list-style-type: none"> 戦略展開シート（分析表のまとめ） 検討体制

(3) ワークショップ結果

ワークショップでの主な意見は以下のとおりです。

① 休憩機能に関する展開事業(案)

施設	導入メニュー（案）・要望
駐車場	構造 <ul style="list-style-type: none"> ● 駐車場に余裕がないと入りたくない ● 建物と段差のない駐車場がよい ● 建物との距離は短い方がよい ● 敷地南側にも入り口を設置してほしい
	機能 <ul style="list-style-type: none"> ● 堆雪場の整備や防雪林として既存樹木の活用が必要
広場	構造 <ul style="list-style-type: none"> ● 子どもの遊び場の整備 ● 岩手山、姫神山が見える展望台（丘）の整備 ● 盛岡市中央公園にある「立志の丘」のように人が集まり活用される広場の整備
	機能 <ul style="list-style-type: none"> ● 気軽にピクニックを楽しめるような広場の整備

② 情報提供機能に関する展開事業(案)

施設	導入メニュー（案）・要望
情報コーナー	観光情報 <ul style="list-style-type: none"> ● 盛岡全体の情報発信（現状で道路利用者に観光情報を発信する場がない） ● 啄木関連施設の情報をまとめて発信 ● コアな情報の発信 ● コンベンション協会を道の駅内に設置 ● コンシェルジュ、ボランティア案内人の配置 ● インターネット・ガイドブック・マップを活用した案内 ● 周遊バスの検討 ● IGRとの連携（駅での広告掲示・IGR乗車券とセットになったお食事券等の導入） ● 小岩井農場のようなバスツアーの企画 ● 観光ルートの提案（玉山を知ろうウォーキング・南部藩の殿様国替え街道コース・吹雪ツアー・わかさぎ釣り・外国人ピクニックコース等）
	移住定住情報 <ul style="list-style-type: none"> ● U I J ターンの支援、就農移住定住の窓口

③地域連携機能に関する展開事業(案)

施設	導入メニュー（案）・要望
飲食コーナー	<p>構造</p> <ul style="list-style-type: none"> • ビュッフェ形式 • 岩手山・姫神山の眺望を楽しめるレストラン等飲食コーナー <p>機能</p> <ul style="list-style-type: none"> • 産直と連携したレストラン等飲食コーナー（レストラン等で提供した食材を産直で販売等） <p>メニュー</p> <ul style="list-style-type: none"> • 四季折々のメインとなるメニューの開発 • 啄木弁当等の啄木に関連した商品の提供 • 雁喰い豆を加工したスイーツ等の提供 • ブランド牛（雁喰い豆を餌とした牛）の開発・提供 • 蕨川そば、ホルモン鍋、ジビエ料理、ニジマスのあらいの提供 • ジェラートの提供 • 施設開業直後は啄木弁当を販売し、リスクを回避
交流スペース	<p>構造</p> <ul style="list-style-type: none"> • 団体客の飲食利用に対応できる空間として整備（フレキシブルな空間利用） <p>体験</p> <ul style="list-style-type: none"> • 人間啄木講座 • 加工体験（そば打ち） • 農作業への参画窓口（受付）として機能 <p>住民利用</p> <ul style="list-style-type: none"> • 住民が多目的に使用できる施設が必要（活動発表・展示会開催等） • 会議や世代間交流のできる施設 • 高齢者サービスの充実（周遊バス、高齢者サロン、加工品（食品）の配達、健康相談スペース）
物産・産直	<p>物産</p> <ul style="list-style-type: none"> • 地元商店のアンテナショップ • 広域的な特産品の販売（二戸のチョコレート・三陸の水産物や加工品・南部鉄器・駄菓子・3大麺売場・木童舎の民芸品等） • 地域が主体となった啄木関連商品の開発 • 啄木かるたの販売・玉山かるたの開発と販売 • 手作りの民芸品（箒・布草履）の販売 <p>産直</p> <ul style="list-style-type: none"> • 道の駅が仲介して集荷・出荷を行うシステム • 姉妹都市等（ビクトリア市・台湾・うるま市）や啄木に関連した都市と連携した特産品の販売（特に商品が品薄となる冬期対策として） • POSシステムの導入 • 売場面積の拡大が必要

施設	導入メニュー（案）・要望				
加工施設	<ul style="list-style-type: none"> • いわて6次産業化支援センターとの連携 • 冬期の商品開発・チャレンジショップでの実験的な販売 • その他にも施設があるため道の駅での整備は不要（展示即売はよい） 				
広場イベント	<ul style="list-style-type: none"> • イベントスペースの確保（軽トラ市、啄木学級、お祭り、鍋パーティー等） • 悪天候でもイベントができるように下屋を設置 				
連絡路	<table border="0"> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">機能</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> • 啄木散策の道として広場から自然に降りて行く楽しみのある場として整備（歌碑・ブルーベリー等の植栽・施設間へのクイズ板設置等） </td> </tr> <tr> <td style="border: 1px solid black; padding: 2px;">構造</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> • 一方通行でも良いので車道整備（歩いて降りる人はいない） • 車道は危ないので遊歩道を整備 • トイレへの動線上に石川啄木記念館への案内板を設置する </td> </tr> </table>	機能	<ul style="list-style-type: none"> • 啄木散策の道として広場から自然に降りて行く楽しみのある場として整備（歌碑・ブルーベリー等の植栽・施設間へのクイズ板設置等） 	構造	<ul style="list-style-type: none"> • 一方通行でも良いので車道整備（歩いて降りる人はいない） • 車道は危ないので遊歩道を整備 • トイレへの動線上に石川啄木記念館への案内板を設置する
機能	<ul style="list-style-type: none"> • 啄木散策の道として広場から自然に降りて行く楽しみのある場として整備（歌碑・ブルーベリー等の植栽・施設間へのクイズ板設置等） 				
構造	<ul style="list-style-type: none"> • 一方通行でも良いので車道整備（歩いて降りる人はいない） • 車道は危ないので遊歩道を整備 • トイレへの動線上に石川啄木記念館への案内板を設置する 				
その他	<ul style="list-style-type: none"> • コンビニは近所の人のリピートにはつながるが、敷地が不十分であれば道の駅としての優先順位は低い 				

④防災機能に関する展開事業(案)

施設	導入メニュー（案）・要望
交流スペース他	<ul style="list-style-type: none"> • 道路利用者を対象とした一時避難所

⑤石川啄木に関するソフトメニュー(案)

導入メニュー（案）・要望
<ul style="list-style-type: none"> • プロモーションビデオ作成 • コスプレをして写真撮影サービス • 歌を詠む、短歌学習会、歌プレートの設置 • 渋民バイパスの愛称を「啄木ロード」とする • ファンクラブカード発行

⑥施設配置

導入メニュー（案）・要望
<ul style="list-style-type: none"> • 岩手山の眺望が計画地の一番の“ウリ”であるため、眺望を必ず確保する必要がある • 姫神山も可能であれば眺望を確保する • スペースが狭く岩手山が見えないため敷地拡大が必要 • 施設はコンパクトに整備し、イベントは仮設テントで行う • 設備は建物の北側に配置し、生鮮品の傷みを避けるため西向きの配置は避ける

⑦建物デザイン

導入メニュー（案）・要望

- 啄木の里をイメージした建物
- 木の活用
- 石川啄木記念館との双方からの見え方を意識したデザイン

⑧運営者

導入メニュー（案）・要望

- 食堂を経営している人に協力してもらう（レストラン等）
- 既存組織を活用した運営体制（詳細は運営者が決定してから検討が必要）
- 広域的な連携等を考慮して交渉・マネジメントできる人が必要
- 指定管理者は公募する必要がある
- 運営は経営のプロに任せ、地元の人や周辺地域の人がスタッフとして加わる体制がよい
- 「地域おこし協力隊」に検討段階からスタッフとして加わってもらう
- 高齢者サービス等は社会福祉協議会を窓口とするのがよい

⑨その他

導入メニュー（案）・要望

- 周辺施設（ユートランド姫神等）との連携（全てを道の駅に集めるのではなく機能を補完する）

4-6 住民懇談会の主な結果

地域づくり団体「玉山地域活性化プロジェクト^{タマヤマックス}TAMAYAMAX」との協働によりワークショップ型の住民懇談会を開催し、道の駅の整備内容等について検討を行いました。

(1)住民懇談会の開催概要

ワークショップは3回実施し、その開催概要は以下のとおりです。

第1回	平成29年6月12日（月） ～15日（木）	• 4日間、計11のチームによるアイデアの話し合い
第2回	平成29年7月23日（日）	• 第1回懇談会の意見「玉山らしさ」、「魅力」、「一般的かどうか」、新たな視点について話し合い
第3回	平成29年10月1日（日）	• 第2回で特に「玉山らしく、魅力的」と整理された4つの分野「食・特産」、「産直」、「休憩・景観」、「情報発信」について具体的に話し合い

(2)住民懇談会のまとめ

住民懇談会のまとめとなる第3回住民懇談会の検討内容について以下に整理します。

① 第3回懇談会のまとめ

		主な検討内容
玉山らしさ	全体	<ul style="list-style-type: none"> 郷土の歌人である石川啄木を活かした「文学の道の駅」
	食・特産	<ul style="list-style-type: none"> ご当地ラーメン・アイス、特産のひつつみ、雑穀、古代米、クレソン、四季ごと
	産直	<ul style="list-style-type: none"> 啄木文学つながりで色々集められる 農家さんのスイーツ/乾燥野菜使い方・作り方が課題
	休憩・景観	<ul style="list-style-type: none"> 中でも外でも座って足が伸ばせるスペース 動いて休憩/啄木を活かしたルートなど トイレ⇒高齢者、子ども、障がい者対応 ライブ、バーベキューをしながら岩手山、姫神山の眺望を楽しむ（椅子の設置）
	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 歴史⇒愛宕神社、義経の馬の墓、熊野神社、奥州街道、岩手森、一里塚 観光地紹介⇒看板、PC等による玉山のイベント情報の提供
	建物デザイン	<ul style="list-style-type: none"> 建物デザインは小学校風（木造）
	記念館との連携	<ul style="list-style-type: none"> 「啄木の見た景色」など歩きたくなる歩道で連携 啄木記念館と企画展でタグ⇒メニューで道の駅にも来てもらう/学校関係にPRする（セールス）⇒記念館と道の駅セット

4-7 「道の駅石神の丘」利用調査の主な結果

(1)調査の概要

①調査の目的

本計画作成・方針検討にあたり、道の駅石神の丘の利用者層・利用目的・施設利用状況等について聞き取り調査等を行いました。

②調査の期間

平成29年5月26日(金)～30日(火)の5日間、利用者が多い9時～16時頃の調査を実施。

※ 調査期間は定休日等から石神の丘管理者との協議に基づき金曜日～火曜日としました。

②利用者調査数

374件

(2)利用者聞き取り調査結果概要

	結果
利用者層	<ul style="list-style-type: none"> 60代 31.6%が最多
出発地	<ul style="list-style-type: none"> 県内からの利用者が全体 87.4%を占める
目的地	<ul style="list-style-type: none"> 県内に向かう利用者が全体の 94.4%を占める
移動目的	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅で買物目的が35.3%を占める
利用回数	<ul style="list-style-type: none"> 92.5%がリピーター
利用目的	<ul style="list-style-type: none"> 産直物産 46.4%、トイレ 18.8%、レストラン 11.3%
盛岡 必要機能	<ul style="list-style-type: none"> 産直物産 30.8%、清潔なトイレ 15.1%、レストラン 13.6% その他、広い駐車場、ソフトクリーム、生花、苗販売、温泉・足湯、こども遊び場、地元のもの、名物、イオンとの差別化など
その他 意見	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅設置を楽しみにしており、特徴がある新鮮な野菜や地元の食べ物を楽しめるほか、遊具など子どもが楽しめるという意見が多い、一方で普通の道の駅が良いと言った意見や既にイオンがあることから新たな道の駅は不要との意見も一部にあった

4-8 各道の駅の訪問から得た主な結果

(1)道の駅の訪問概要

東北地方及び関東地方の既存道の駅 27 事例について、訪問調査を行いました。主な特徴について以下に整理します。

道の駅	主な特徴
道の駅 川場田園プラザ	<ul style="list-style-type: none"> 地ビールなど<u>オリジナル商品も多く</u>、レストランも複数あり、利用者の選択の幅が広いことがリピート利用に繋がっているように感じる
道の駅 うつのみや	<ul style="list-style-type: none"> ドッグランや<u>パン焼き、ピザ焼き体験</u>などもできる
道の駅 どまんなかたぬま	<ul style="list-style-type: none"> <u>イベントも多く</u>、ゆるキャラとして知名度もある「<u>さの丸くん</u>」のオリジナル商品や知名度の高い佐野ラーメンなどを提供
道の駅 もてぎ	<ul style="list-style-type: none"> <u>冬の花火大会やSL鑑賞などのイベントも多彩</u>
道の駅 しもつけ	<ul style="list-style-type: none"> 屋外には<u>展望タワー(イルミネーション、すべり台あり)や猿回しの定時開催</u>など子ども連れも楽しめる
あ・ら・伊達な道の駅	<ul style="list-style-type: none"> <u>イベント多彩</u>、本州唯一のロイズ販売(チョコレート)が特色 鳴子・山形方面の交通要所、郵便局や集会所など<u>地域住民の利用が多い</u>
道の駅 みなみかた	<ul style="list-style-type: none"> <u>道の駅のつくりとしてコンパクト</u>にまとまっており、参考になる部分がある <u>駐車場の区画が狭い</u>
道の駅 上品の郷	<ul style="list-style-type: none"> <u>十円饅頭やジェラート(しじみアイスあり)、串焼き店など複数のテナントが入居している点</u>も魅力と思われる
道の駅 三滝堂	<ul style="list-style-type: none"> <u>施設の規模感が良く</u>、コンビニが入店しており利便性が高い <u>RVパークやドッグランなどもコンパクトに整備されている</u> <u>喫煙所がテント式のものとなっており</u>、初期投資や維持管理経費も抑えられている
道の駅 かわさき	<ul style="list-style-type: none"> <u>炊き込みご飯やしそ巻き、がんづき、豆腐など加工品が充実</u> <u>がんづきをまとめて購入している人がいるなど</u>、<u>周辺住民のリピート利用が多い</u>
道の駅 なみおか	<ul style="list-style-type: none"> <u>りんごの時期には特設販売所を設置</u>、<u>りんごもぎとり体験あり</u>、<u>藍染体験工房も入居</u>
道の駅 虹の湖	<ul style="list-style-type: none"> <u>農家直売コーナーの店員(高齢女性)の接客が地域性があり好印象</u>
道の駅 遠野風の丘	<ul style="list-style-type: none"> <u>市内の商店・飲食店情報を写真入りで提供</u>
道の駅 平泉	<ul style="list-style-type: none"> <u>町内各所の世界遺産への誘導拠点となる施設</u>、道の駅に停車し、<u>レンタサイクル、循環バス、公道カート</u>などを利用して滞留型観光を想定
道の駅 にしね	<ul style="list-style-type: none"> レストランもハウレンソウを活かしたメニューとしているほか、運営組織が温泉宿泊施設も管理し、<u>板前によるメニュー開発が行われている</u> <u>駐車場の狭さやトイレの老朽化が不満点となっていたが</u>、いずれも<u>拡張・リニューアルして改善している</u>
道の駅 石神の丘	<ul style="list-style-type: none"> <u>美術館を併設</u>、<u>産直商品が安価なこと</u>から近隣からの来客が多い <u>軽食コーナーの十割そばの固定客がある</u>、<u>土日祝のみ販売している食肉加工センターの直売の人气が高い</u> <u>フリーマーケットや学生のロックフェスなど各種イベントも実施している</u>。

(2)先進道の駅の視察概要

先進道の駅として平成30年春開業予定の「道の駅米沢」や「道の駅いいで」「道の駅川のみなと長井」に視察を実施し、主に以下の助言を得ました。

主な助言内容のまとめ

- 運営者の計画初期段階から参画が必要
- 賑わっている道の駅に関わっているアドバイザーの活用も有効
- 施設配置は道路に沿ってワイドにするのが効果的
- 立ち寄ってもらう施設になるためには初速・初動が大切、まずは賑わいがある施設として認識してもらい、ここを通ったら必ず寄る場所としてもらう

4-9 庁内ワークショップ

前述した「道の駅石神の丘」利用者調査結果の整理を進めるため、「利用者調査結果に基づく道の駅」「利用者調査結果を裏返した道の駅(差別化・特徴づけ)」

「盛岡・玉山を生かした道の駅」「その他特徴のある道の駅」について、庁内関係者によるワークショップによるニーズや課題等の整理を行いました。

以下に総合的なまとめと課題について整理します。

	主な内容	課題
駐車場	<ul style="list-style-type: none"> • 広い駐車場（道の駅登録基準以上） • 自転車、二輪車対応 • 大型車対応 • 自転車駐輪場 • 入り口は二箇所 	<ul style="list-style-type: none"> • 用地取得 • 整備費用 • 維持管理 • 需要調査 • 国交省との協議
休憩・トイレ	<ul style="list-style-type: none"> • 商業施設近くにキレイなトイレ • 子どもや乳幼児対応(トイレ・休憩) • 利便性が高く、運転者や家族連れが休める休憩所 • 啄木(大正風)や盛岡、玉山の雰囲気を持った意匠 	<ul style="list-style-type: none"> • 整備費用 • 維持管理 • 国交省との調整 • 収益への結びつけ
産直・物産	<ul style="list-style-type: none"> • 年間、一日を通じて地元や他地域も含めた商品(野菜、肉、魚、加工品、苗など)が揃っている産直) • 玉山、盛岡、岩手の土産物や名産品、工芸品などが揃っている物産施設 • 地元店、有名店のテナント入居 • 朝市風、よ市風、市場風、月替わり、テーマを持った品揃えなど、他の道の駅が真似できず、飽きられない店づくりと運営 	<ul style="list-style-type: none"> • 出荷者、出店者、仕入先、商品の確保 • オリジナル商品開発 • 独自性の確保 • 採算性の確保

	主な内容	課題
飲食	<ul style="list-style-type: none"> • 地元看板メニューなどの名物や地場産品・地場加工品を使用したオリジナルメニューのあるレストランや軽食コーナー • パン工房、ソフトクリーム • レトロ自販機、オートスナック • バーベキューやビアガーデンなど季節に対応した飲食 	<ul style="list-style-type: none"> • メニュー提供者の確保 • 材料や器材の確保と仕入れ単価等による採算性 • メニュー提供価格と道の駅利用者層との整合 • オリジナルメニュー開発体制 • 出店者、調理等の人材確保 • 採算性と需要の調査
その他	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもの遊び場、ペット広場 • 観光案内人の配置 • 夕方、夜間利用への対応 • 啄木、姫神山、岩手山、オオヤマザクラ、姉妹都市などの資源活用 	<ul style="list-style-type: none"> • 用地取得、整備費用 • 需要と収益への結びつけ • 人材確保 • 維持管理 • 資源調査と連携先協力

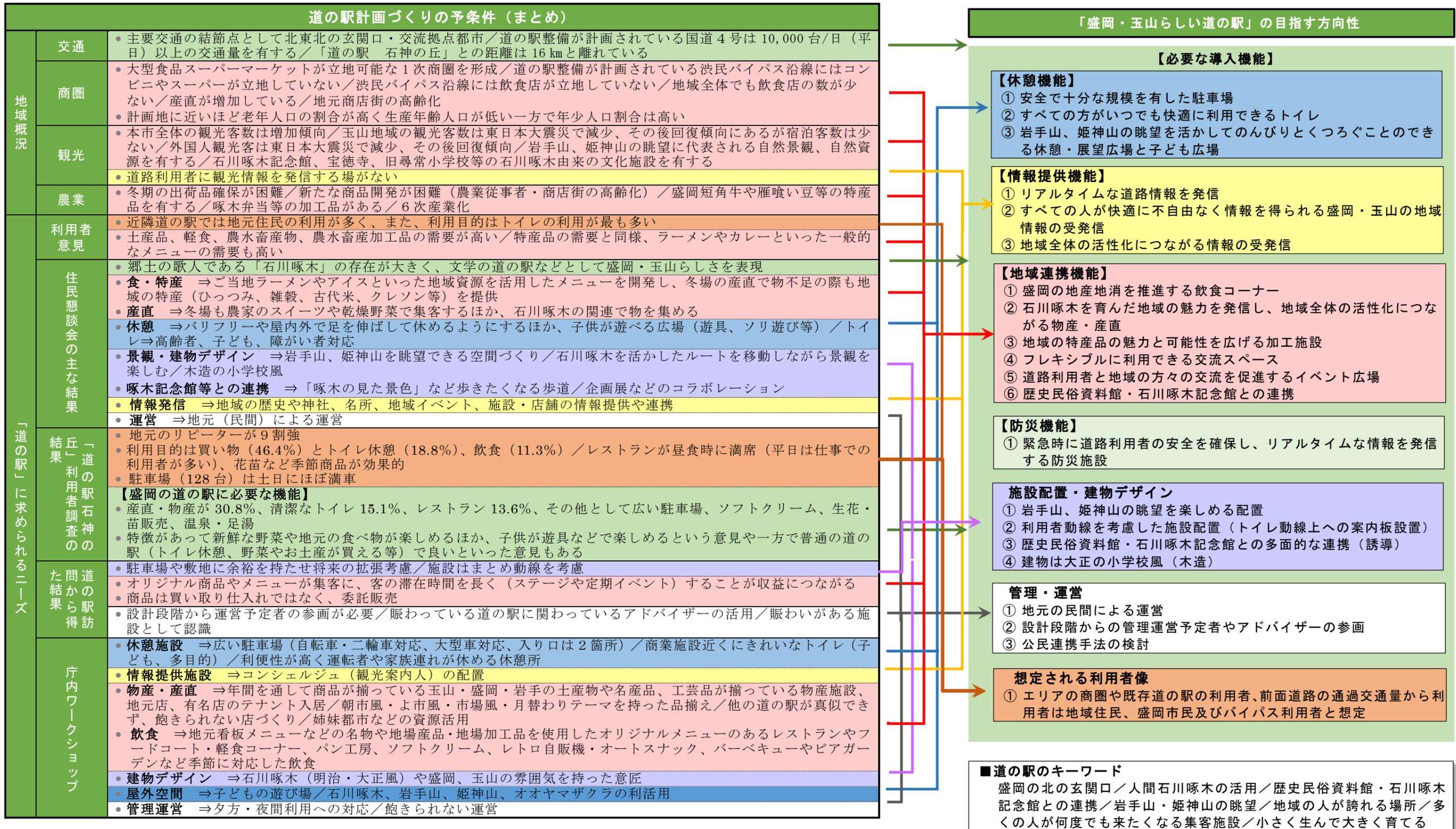
4-10 マーケットの状況

以上の先進道の駅調査や道の駅に関わる既存の調査、メディア情報等の各種情報を取りまとめると、道の駅を取り巻くマーケットの状況

項目	結果
利用目的	<ul style="list-style-type: none"> • 「休憩・トイレ」「買物・食事」が大半 • この分野でどう戦うかが重要なポイント
来客者居住地	<ul style="list-style-type: none"> • 地元自治体あるいはその近くが半数以上 • 車の移動時間で1時間程度が主な客層
年齢層	<ul style="list-style-type: none"> • 50代以上が5～7割 • この年齢層の満足度、期待度に如何に答えられるか
利用頻度	<ul style="list-style-type: none"> • リピーターが7～8割 通りすがりではなく道の駅目当て • リピーターを如何に獲得するか、離さないかが重要
購入額	<ul style="list-style-type: none"> • 一人あたり1,100～1,200円程度 • 多くの人を呼び込み薄利多売で経営している
満足／不満足要因	<ul style="list-style-type: none"> • 満足／不満足要因は「地元特産品の豊富さと値段」 • 店舗、トイレの清潔さも関心が高い • 地域食材のオリジナル料理、土産品への期待も大きい

4-11 道の駅の計画づくりの与条件と道の駅に求められる方向性

第2章地域概況及び第3章「道の駅」に求められるニーズから、地域課題や利用者・管理者ヒアリング、地域住民とのワークショップ等の結果を、道の駅の計画づくりのための与条件として、道の駅の基本機能（休憩機能、情報提供機能、地域連携機能+付加機能である防災機能）に「盛岡・玉山らしさ」を強調する要素を取り入れ、目指す方向性を整理しました。



第5章 導入施設の整備方針

5-1 施設整備の基本方針

基本構想、ワークショップ、道の駅調査等の結果から、道の駅整備の基本方針を次のとおりと設定しました。

基本方針	
1	安らぎ、くつろぎ、リフレッシュできる道の駅 “自然景観”、“魅力”、“おもてなしの心”を満喫し、疲れを癒し、活力を回復できる道の駅
2	より多くの人を訪れる、訪れたいくなる道の駅 地域の人も含め多くの人が集まりたいくなる、何度でも訪れたいくなる道の駅
3	石川啄木を感じられる道の駅 石川啄木記念館、旧齊藤家等も含め、啄木を感じられる道の駅
4	様々な人が活躍できる道の駅 女性、高齢者、障がい者等様々な人が活躍できる道の駅
5	市民が主役の道の駅 市民が主体となって、魅力を創り進化する道の駅
6	自立・持続経営可能な道の駅 持続した経営が可能となる道の駅

5-2 新規参入者としての基本戦略

車移動で1～2時間の範囲には約40箇所の道の駅が整備されており、市場は既に飽和状態にあることから、新規参入者として次のとおり基本戦略を設定しました。

基本戦略	
1	徹底した“差別化” <ul style="list-style-type: none"> ・新規参入者としては、低価格化では勝てる要素が少ない ・競合他者と様々な面で、徹底した“差別化戦略”をとる必要がある
2	“ニッチ”戦略 <ul style="list-style-type: none"> ・他の道の駅にない、新しく真似されにくい商品・サービスを提供 (例)「あ・ら・伊達な道の駅」の売りとなっている「ロイズのチョコレート」など
3	特徴づけ 特徴のある道の駅とするため、次のような手段により専門的知識や経験を踏まえた具体的な戦略を策定する (1) 多くの道の駅を手掛けているアドバイザーを招聘 (2) 将来の経営候補者を早期に選定し計画初期段階から参画

5-3 「ターゲット」と「より特徴のある戦略」

前章までに整理したニーズやワークショップ等による結果や、道の駅等に関する各種調査結果から、想定されるターゲット等を次のとおり設定しました。

■ターゲット（利用者像）

【道の駅利用者】

① 国道4号ドライバー・同乗者

- ・平成27年4月調査 11,600台
- ・国道4号道の駅空白エリア 南47km、北16km

② 車で1時間範囲の居住者（地域住民1.2万人、盛岡市民30万人）

メインターゲットは盛岡市内（都市部）の居住者

【より特徴のある戦略・市場開拓】

① 更なるターゲットのフォーカス

- ・道の駅の主要利用年齢層 50代以上
 - ・買物や小旅行先を決めるのは主に女性(旅行代理店調べ)
- ➡ 50代以上
(主に女性)
に訴求する取組

② 子育て世代、20～30代若年層の開拓

- ・これまでの「道の駅」の主要利用者層ではない層をあえて狙い新たな顧客を開拓(適した戦略が必要)
- ・子育て応援の取り組みとして、「24時間利用可能なベビーコーナー」「妊婦向け優先駐車スペース」「遊具・キッズコーナー」等の設置、「親子向けの体験教室の実施」等により子育て世代を支援・応援する道の駅を目指す

③ 初期段階では市民をメインターゲットとする

- ・初期段階では市民等の交流の場・賑わいの場づくりを進め、道の駅を盛岡・玉山の新たな魅力の創出拠点とする取組を進める
- ・次なる段階で、創出した魅力を活用し、更なる観光客や地域外の人々の呼び込み、インバウンドの取り込みにつなげる

■すべての方がいつでも快適に利用できるトイレの整備を目指します

- すべての方がいつでも快適に利用できるような清潔感があり、利用したくなる付加価値や満足感が得られるトイレの整備を目指します。また、バリアフリーに配慮し、多目的トイレ等を整備するとともに、夜間でも安心して利用できるように照明配置や駐車場からの動線等にも考慮して整備を進めます。

■岩手山、姫神山の眺望を活かしてのんびりとくつろぐことのできる休憩・展望広場と子ども広場の整備を目指します

- 本道の駅の特徴でもある「岩手山・姫神山の眺望」を活かして利用者がのんびりとくつろぐことのできる広場を検討します。
- 計画地周辺の年少人口割合が高いことから、子どもが安心して遊ぶことのできる遊具のある広場、冬期の雪遊びをはじめ雪の活用などに対応できるような広場を検討します。



ゆったりとした芝生広場
(道の駅つる、つるHPより)

5-4-2 情報提供施設

情報提供施設は、道の駅の基本機能である24時間利用可能な道路情報提供施設を整備するとともに、盛岡市内に道路利用者への観光情報発信施設がないことから地域の観光情報を発信する施設の整備を目指します。

■リアルタイムな道路情報を発信できる施設の整備を目指します

- 道路管理者と協議を行いながら道路利用者に必要な情報をリアルタイムで発信できるように計画を目指します。



道路カメラでのリアルタイムな道路情報の発信（道の駅 寒河江、国土交通省HPより）

■快適に情報を得られる環境づくり・地域情報の発信拠点づくりを目指します

- フリーW i - f iによるデジタルな情報受発信環境の整備、スマートフォン（ウェブサイトやSNSの活用）による「ガイド東北」との連携、ガイドマップ（紙媒体での発信）やコンシェルジュ（観光案内人）の配置など、様々な世代に対応した情報発信方法を検討します。
- 観光案内情報誌だけでは分からない、盛岡・玉山地域の魅力的な歴史や文化、名所、施設や店舗等の紹介など、道の駅でしか分からない情報を提供するとともに、盛岡・玉山地域を近隣・全国・世界へ向けて発信ができる機能の導入を目指します。
- 石川啄木記念館と連携して啄木体験ツアールートなど啄木に関する盛岡市全体の観光情報を一括で発信するなど、「盛岡市初の道の駅」や「北の玄関口」ということに配慮した情報内容を検討します。



コンシェルジュの配置
（道の駅 パティオ新潟）

■地域全体の活性化につながる情報を受発信できる施設整備を目指します

- 道の駅だけでなく玉山地域全体の活性化を目指して、啄木をはじめとする地域の財産・資源を活用した観光・食・体験、周遊バスの検討やIGRとの連携、地元商店街や周辺施設を結ぶスタンプラリー等、周遊観光やインバウンドの取り込みを促進するような取組を検討します。



伝統工芸浮書絵彫展示会
（道の駅 とみうら、国土交通省HPより）

5-4-3 地域連携施設

地域連携施設は、飲食コーナー（フードコート、軽食等）、交流スペース、物産・産直、加工施設、イベント広場、石川啄木記念館との連絡路の整備を検討します。

■盛岡・玉山の地産地消を推進する飲食コーナー(フードコート、軽食等)の整備を目指します

- 道の駅計画地周辺の飲食店は2 km圏に16件と少ないことから、盛岡・玉山地域の地産地消を推進する飲食コーナー（フードコート、軽食等）の導入を目指します。具体的には、四季折々に啄木が食べた料理の提供、地域の特産（ひつつみ、雑穀、古代米、クレソン等）を使ったご当地ラーメン等のメニューの開発や6次産業化による雁喰い豆を加工したスイーツ等、地域資源を活用した飲食の提供を目指します。一方、整備直後（施設立ち上げ期）は既存の加工品や弁当の販売を行うなど、小さく生んで大きく育てるなどのリスク回避も検討します。
- 道の駅計画地の強みである岩手山の眺望に「食事を楽しみながら眺望を楽しむ」という付加価値を与えることは道の駅や地域にとって非常に有益なものといえます。そのため、飲食コーナーは岩手山の眺望に配慮した配置を検討します。
- 既存道の駅の調査結果からファストフード（ソフトクリーム、パン、ドーナツ等）の軽食の人気が高いことから、気軽に飲食のできる地域資源を活用した軽食メニューの提供を目指します。



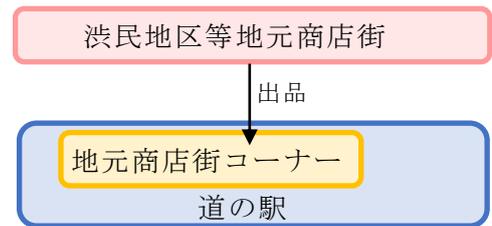
旬の食材がビュッフェ形式で楽しめる農家レストラン（道の駅 パティオ新潟、パティオ新潟HPより）



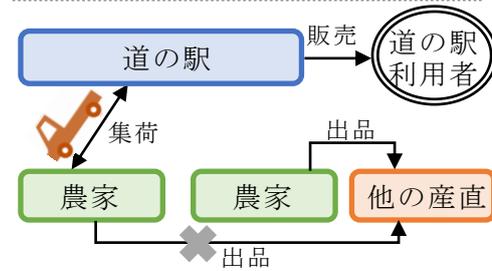
特産品を加工したアイスの販売（道の駅 もてぎ、もてぎHPより）

■石川啄木を育んだ地域の魅力を発信し、地域全体の活性化につながる物産・産直施設の整備を目指します

- 地域が主体となった啄木関連商品の開発や啄木とつながりのある地域、姉妹都市・友好都市等（ビクトリア市，うるま市，文京区等）との連携によるオリジナル商品の開発を検討します。
- 年間を通して商品が揃っている玉山・盛岡・岩手のお土産品や名産品、工芸品が揃っている物産施設を目指すとともに集客力のある有名店のテナント誘致を検討します。
- 物産・産直は、地元商店や起業したい方のマルシェ・シェアショップとしての機能を有するとともに、冬期の物資不足への対応として地域資源を活用した特産品（雑穀、スイーツ、乾燥野菜等）の販売を検討します。
- これまで産直に出品できていなかった方々への地域の市場機能（集荷、販売）を検討し、地域全体の活性化につながる物産・産直施設を目指します。さらにPOSシステム（販売状況が出品者にリアルタイムで届くシステム）の導入等により、出品者の利便性向上や意欲向上に努めます。



▲アンテナショップのイメージ



▲集荷を含めた産直品の販売イメージ

■地域の特産品の魅力と可能性を広げる加工施設の整備を目指します

- 加工施設では、いわて6次産業化支援センターとの連携も行いつつ、オリジナル商品の開発に取り組むことを検討します。開発した商品はチャレンジショップとして実験的に販売するなど、物産・産直と一体となった加工施設を目指します。

※加工施設はワークショップにおいて「不要」との意見が出ており、今後更なる検討が必要となります。



特産品を使ったオリジナル商品の開発（道の駅 もてぎ、もてぎHPより）

■フレキシブルな利用に対応した交流スペースの整備を目指します

- 道の駅計画地の強みのひとつである石川啄木を地域の貴重な財産として人間啄木講座（啄木の逸話の紹介）の開催や、地域資源を活かした加工体験（そば打ち等）や農業体験の窓口等の実施を検討し、道の駅だけではなく地域全体の活性化のために、様々な利用に対応できる交流スペースの整備を検討します。
- 道の駅の主な利用者は、道路利用者や観光客だけでなく、地元の方が含まれるということ踏まえ、交流スペースは地域の方々が集い交流することのできるスペースとしても活用を検討します。例えば地域住民の活動発表の場、展示会開催等の利用が想定されます。
- 団体客の受入スペースとしての活用も検討する等、フレキシブルな利用に対応できるスペースとしての整備を検討します。



料理や工芸等の体験教室を通じて世代間交流を図る道の駅（道の駅 さかい、さかいHPより）



道の駅でのそば打ち体験（道の駅 たくみの里豊楽館、豊楽館HPより）

■交流を促進するにぎやかなイベント広場の整備を目指します

- 道の駅の顔となる“にぎやかさのある空間”を確保するとともに、テーマ性を持ったマルシェ（常設的な出店が不可能な地元店舗の出張販売、休日限定市、軽トラ市、屋台やケータリングカーなど）の開催など、地域住民が行ってみたいくなる・道路利用者が寄ってみたいくなる楽しくて飽きない広場空間の運営を検討します。



道の駅での郷土芸能フェスティバルの開催（道の駅 どまんなかたぬま、どまんなかたぬまHPより）

■歴史民俗資料館・石川啄木記念館との連携を強化する回遊歩道等の整備を目指します

- 石川啄木は地域を代表する存在であり、石川啄木記念館と道の駅との連携により利用者の相互移動や、より多くの地域の魅力発信といった相乗効果がうまれます。そのため石川啄木記念館との連携は道の駅整備に欠かせない要素のひとつであるといえます。このため、コラボレーションによる連携イベント等の開催に加えて相互の連携をより強くするため、道の駅と石川啄木記念館を結ぶ歩

きたくなる連絡路（回遊歩道等）の整備を目指します。連絡路には歌碑やオオヤマザクラなどの花木を植栽する等、移動の楽しみを確保するとともに、道の駅広場から自然な動線で降りていけるように整備することで、利用者の誘導を図ることを検討します。また、道の駅と石川啄木記念館双方の案内板を適切な位置に配置し、連携促進を図るとともに冬季対策についても検討します。なお、連絡路の整備内容についての検討は「第5章」に整理しています。

5-4-4 防災施設

本市では地域住民を対象として災害時に避難所の指定、防災活動の協力に関する協定を締結しています。玉山地域では「指定緊急避難場所」として56箇所が指定され、「イオンスーパーセンター盛岡渋民店」は被災者の避難場所としての駐車場の提供、物資の提供を行うこととなっています。

以上のことから、地域住民を対象とした避難場所、物資提供は既存の施設で対応可能であるため、道の駅では道路利用者のための一時避難・安全確保機能を中心として整備を検討することとします。

東日本大震災で道の駅が果たした主な役割は以下のとおりです。

施設	果たした役割
駐車場	道路利用者の一時避難場所・支援部隊の中継拠点
トイレ	道路利用者等の利用
情報提供施設	被災状況の情報発信
地域振興施設	炊き出し・物資の供給（地域振興施設販売品を用いた炊き出しや販売・供給）



情報提供スペースで情報を得る一時避難者（道の駅南相馬、国土交通省HPより）



自衛隊の前線基地となった道の駅（道の駅津山、国土交通省HPより）



災害用トイレ（道の駅三本木、国土交通省HPより）

■ 緊急時に道路利用者の安全を確保し、リアルタイムな情報を発信する防災施設の整備を目指します

- 東日本大震災で道の駅が果たした役割を踏まえて、本道の駅では「道路利用者の一時避難」を対象とする防災機能施設の整備を以下のとおり検討します。防災施設は道路利用者を対象として整備するため、道路管理者と協議を行いながら施設整備を検討します。

施設	果たす役割	必要となる設備
駐車場	道路利用者の一時避難場所	十分な駐車場
トイレ	道路利用者等の利用	
情報提供施設	被災状況の情報発信	情報提供施設
地域振興施設	物資の供給	物産・産直コーナー

5-4-5 その他任意機能

全国に多くの道の駅ひしめく状況のなかで本市の道の駅が、より魅力があり、利用者には選ばれる道の駅となるためや、盛岡・玉山地域の未来につながるステージとなるためには、従来の道の駅が持っている機能に加え、先進的な機能や将来性のある機能を取り入れることが重要になります。

また、それら機能を実効性があり有益なものとするためにはそれら機能を十二分に活用できる運営が必要となります。

そのためには、機能整備に際して、実際の運営者とともに導入機能や整備内容を決定する必要があることから、今後、管理運営者を早期に決定し、管理運営者の意見を設計に取り入れることを検討します。

現時点で、想定される機能としては次のようなものが挙げられますが、盛岡・玉山地域の将来にとって重要、かつ、道の駅として特徴を出すことができる任意機能の導入を、将来の管理運営者とともに検討します。

【今後、管理運営予定者とともに導入の検討等を進める機能の一例】

No.	機能	内容
1	若者定住・UI ターン機能	起業・就業(事業継承)支援、チャレンジショップ、貸工房
2	石川啄木を感じられる機能	啄木ゆかりの飲食、イベント、記念館誘導に繋げるミニ展示、連絡路を活用し回遊性を向上させる施設等(歌碑等)、レンタサイクル
3	関係人口拡大のための機能	わくわくする面白い場所づくり(週末コンサート、移住コミュニティ)
4	女性・障がい者・高齢者の活躍の場の創出機能	女性等の雇用創出、託児所、子育てサロン、高齢者サロン、デイサービスの設置など
5	文化発信・交流スペース機能	イベント広場・ステージ、交流スペース、地元商店アンテナショップ、健康相談、軽トラ市、マルシェ(地域市場)、地域コンシェルジュ、ドッグラン、サイクリング・バイクツーリング対応
6	効果的・戦略的情報発信機能	地方で豊かな暮らしや夢を実現したいと考えている人の琴線に触れる情報を積極的に発信
7	子連れで楽しめる空間づくり	ベビー・キッズコーナー、遊具、ソリ遊び、ワカサギ釣、ポーネルド社、ボルダリング、ピクニック、バーベキュー等、家族農園(地元農家指導ケア付)、各種体験(啄木文学・短歌体験、パン・ピザ焼、そば打ち等)
8	次世代を担う人材育成機能	チャレンジショップ、貸工房、伝統芸能保存継承、経営参画など
9	メインターゲットの琴線に触れる雰囲気・機能	50代以上の女性が好むもの・感動するもの(景観、花、ハーブ、アロマ、スイーツ・本格ラーメン、アートトイレ、音楽、市産材など)
10	名誉駅長	地元出身の著名人などを名誉駅長に委嘱

5-4-6 導入施設まとめ

盛岡市「道の駅」導入施設（案）

休憩機能

- 安全で十分な規模を有した駐車場の整備を目指します
- すべての方がいつでも快適に利用できるトイレの整備を目指します
- 岩手山、姫神山の眺望を活かした休憩・展望広場の整備を目指します



▲ゆったりとした芝生広場（道の駅つる、つるHPより）

【導入施設】

- 駐車場
- トイレ（清潔感+α）
- 休憩・展望広場

情報提供機能

- リアルタイムな道路情報を発信できる施設の整備を目指します
- すべての人が快適に不自由なく情報を得られる環境の整備を目指します
- 地域全体の活性化につながる情報を発信できる施設の整備を目指します



▲伝統工芸浮書絵彫展示会（道の駅とみうら、国土交通省HPより）

【導入施設】

- 道路情報提供施設
- 地域情報・観光情報等提供施設

地域連携機能

- 盛岡の地産地消を推進する飲食（フードコート等）・軽食コーナーの整備を目指します
- 石川啄木を育んだ地域の魅力を発信し、地域全体の活性化につながる物産・産直施設の整備を目指します
- 地域の特産品の魅力と可能性を広げる加工施設の整備を目指します
- フレキシブルな利用に対応した交流スペースの整備を目指します
- 道路利用者と地域の方々の交流を促進するイベント広場の整備を目指します
- 歴史民俗資料館・石川啄木記念館との連携を図る連絡通路の整備を目指します



▲道の駅でのそば打ち体験（道の駅たぐみの里豊楽館、豊楽館HPより）

▶特産品を加工したアイスマーケット（道の駅もてぎ、もてぎHPより）



▲特産品を使ったオリジナル商品の開発（道の駅もてぎ、もてぎHPより）



▲旬の食材がビュッフェ形式で楽しめる農家レストラン（道の駅パティオ新潟、パティオ新潟HPより）



▲道の駅での郷土芸能フェスティバルの開催（道の駅どまんなかたぬま、どまんなかたぬまHPより）

防災機能

- 緊急時に道路利用者の安全を確保し、リアルタイムな情報を発信する防災施設の整備を目指します



▲情報提供スペースで情報を得る一時避難者（道の駅南相馬、国土交通省HPより）



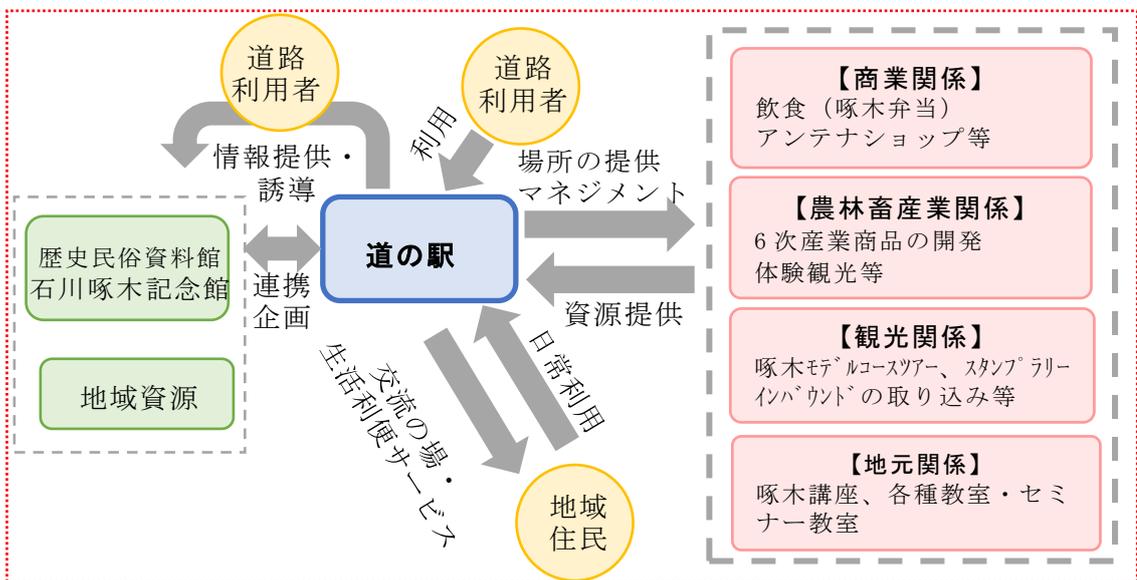
▲自衛隊の前線基地となった道の駅（道の駅津山、国土交通省HPより）

5-5 「盛岡・玉山」らしい道の駅を目指した地域振興策の整理

石川啄木生誕の地として、唯一無二の文学を育んだ「食」・「文化」・「ゆかりの場所」等をつなぐ「道の駅（観光＋地域振興）」を目指します。今後、民間のアイデアを活かしながら地域活性化のために必要な施策について、具体的な検討が必要となります。以下に想定される活性化策について整理します。

- ① 啄木を育んだ地域資源を活かした飲食の提供
- ② 啄木ゆかりの情報や、地域資源を活かした観光情報の受発信
- ③ 啄木をテーマとしたイベント・体験機会の提供、盛岡・玉山地域の文化の発信・体験機会の提供
- ④ 啄木ゆかりの名所整備、観光地等の整備

【地域全体の活性化を目指した拠点整備のイメージ】



＋ 道の駅を核として盛岡市も含めた関係者との広域的な連携 → 地域全体の活性化

【地域全体の活性化につながると期待される整備効果】

- 道路利用者の地域への立寄率向上による地域経済への寄与
- 観光客の増加（観光客入込数・宿泊観光客数・外国人観光客入込数の増加）
- 地域経済の好循環化による販売額等の向上（卸や小売の年間販売額・製造品出荷額・農産物加工品販売額の増加）
- 地域での雇用創出（地域内就業者の増加）
- 地域住民や子どもの憩いの場、活動の場創出
- 地域住民の日常生活における利便性向上（買い物等）
- 地域の魅力アップ
- 他地域からの人材確保や地域の魅力向上、各産業の成長による転出者の抑制
- 地域全体の再整備（観光名所の再整備、まちづくりの推進）へのきっかけづくり
- 地域づくりへの意欲向上
- 姉妹都市や友好都市等との結びつきの強化

5-6 石川啄木記念館との連携(まとめ)

【連携の必要性】

①基本構想に示された必要性

- 道の駅予定地の近接地において玉山歴史民俗資料館・石川啄木記念館整備事業が予定されているため、整備される施設群が相乗効果を発揮する必要がある。

②観光動向を踏まえた必要性

- 石川啄木記念館、玉山歴史民俗資料館はいずれも入込客数が減少傾向にあり、再整備・移転を機に地域の魅力を発信する施設として誘客を進める必要がある。

③地域ニーズ(ヒアリング結果・ワークショップ結果)を踏まえた必要性

- 石川啄木という郷土の歌人を地域の強みとして活用するためには、石川啄木記念館との連携が必要である。

【連携のための施策(ソフト事業)】

- 連動イベントの開催
- 道の駅への郷土資料や郷土芸能の展示(玉山歴史民俗資料館、石川啄木記念館への誘導につながる簡易的な展示)

【連携のための施策(ハード事業)】

- 連絡路の整備
- 連絡路への歌碑や花木の植栽、クイズ板の設置
- 自然な動線確保
- 案内板の設置
- 石川啄木記念館からの見え方を意識した建築デザイン

【連携により期待される効果】

- 利用者の相互移動
- より多くの地域の魅力発信(相互に連携した観光情報発信)

5-7 渋民地区等の活性化

【活性化の必要性】

①基本構想に示された必要性

- 国道4号バイパス整備により交通量が増加したことに伴う影響が予想される渋民地区等の活性化が必要。

②地域ニーズ(ヒアリング結果・ワークショップ結果)を踏まえた必要性

- 地元商店街の高齢化が進んでおり、道の駅を活用した活性化が必要。

【活性化のための施策(ソフト事業)】

- 物産・産直コーナーに渋民地区や好摩地区などの地元商店街のマルシェ・シェアショップ機能を追加(商店街の商品を道の駅で販売)
- 情報コーナーにおいて地域のコアな情報を発信
- 周遊バスの運行
- 地元商店街や周辺施設を結ぶスタンプラリー

【期待される効果】

- 地元商店街の販売機会の増加
- 地元商店街への誘客促進
- 地域住民と道の駅利用者との交流機会の創出

第6章 施設配置計画

6-1 施設位置周辺の現況把握

施設の配置計画を行うにあたり、計画地周辺の現況（特に配置計画に関わる事項）を以下のとおり整理しました。



① 岩手山の眺望



② 姫神山の眺望



③ 計画地と洪民バイパス



④ 石川啄木記念館

6-2 前提条件の整理

施設周辺の状況と第4章導入施設の整備方針を踏まえ、施設配置に関する前提条件を以下のとおり整理しました。

(1) 駐車場

- 国道4号からの立ち寄りやすさを考慮して敷地北側に右折レーンの設置を検討します。
- 冬期の風を考慮し、駐車場西側に建物や緩衝緑地の設置を検討します。
- 洪民バイパスの4車線化の予定が未定であるため、バイパス西側の敷地で将来的に必要な駐車スペースの配置を検討する計画とします。
- 堆雪場の配置については駐車車両の出入りに支障のない配置を検討します。

(2) 石川啄木記念館との連携

- 再整備予定の記念館、移転予定の歴史民俗資料館と物理的にも連携するために連絡路の設置を検討します。
- 連絡路を車道とする場合は冬期でも安全な勾配の確保を検討します。
- 連絡路は広場から自然に降りて行く楽しみのある場としての整備を検討し、啄木の歌碑設置や花木等の植栽を行うなどの工夫を検討します。

(3) 施設棟、広場

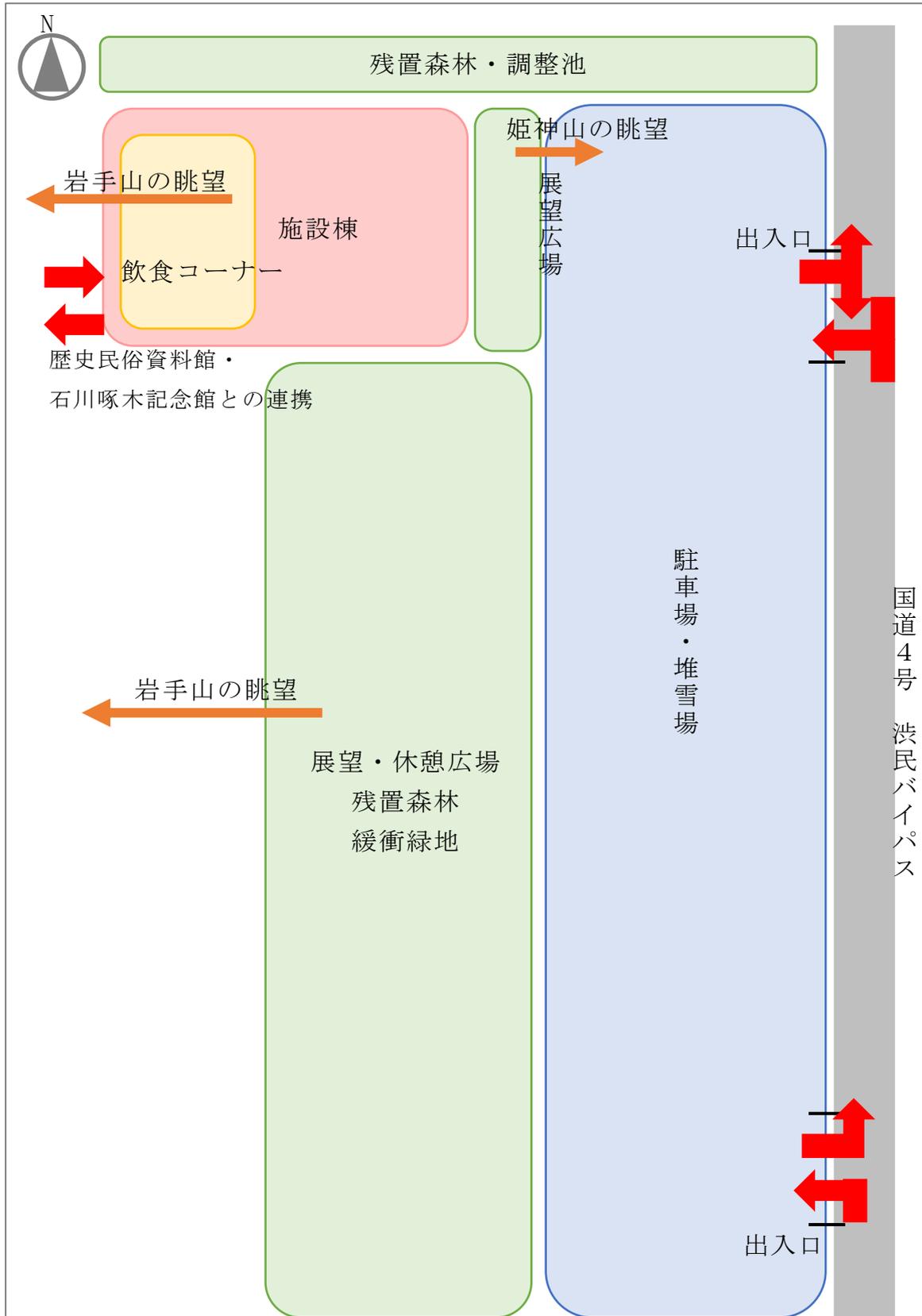
- 冬期の風を考慮し、建物は西向きの配置を避けるとともに風除室を設置することを検討します。また、物産・産直とトラック市を検討しているイベント広場は商品の傷みを軽減するため西向きを避けた配置を検討します。（産直については季節や出荷量に応じて屋外部分等が有効活用ができるような配置等も検討します。）
- 飲食コーナーや休憩・展望広場から岩手山、姫神山の眺望を楽しめるような配置を検討します。
- 情報提供コーナー（情報提供機能）、トイレ（休憩機能）、産直・物産等（地域連携機能）が自然な動線で結ばれ利用者が自然と全ての施設に触れられる配置を検討します。
- 目的をもって訪れるトイレ、飲食コーナーは建物内の端に配置し、多くの利用者が建物内のすべての施設に触れられる配置を検討します。
- 食品を扱う施設（飲食コーナー、厨房、加工所）はまとめて配置し、可能な限り施設を集約化することで設備投資を軽減することを検討します。
- バックヤード施設（事務室、厨房、加工所、付帯施設）はまとめて配置し、従業員と利用者の動線を分離し、利便性の向上を図ることを検討します。
- 付帯施設は冬期の気候や維持管理を考慮し、基本的には施設棟内に設置します。

(4) その他

- 残置森林、調整池（沈砂池）整備を考慮した配置を検討します。残置森林は冬期の風を考慮し、緩衝緑地の役割も含めることを検討します。（用地取得、関係機関協議も踏まえて今後の検討が必要となるものです）

6-3 配置計画概念図

施設配置の前提条件を踏まえた計画地全体の配置概念図（ゾーニング図）は以下のとおりです。



6-4 施設規模

(1)施設規模算定の考え方

施設規模算定の考え方と算定結果は以下のとおりです。

機能・施設		算定の考え方	算定結果
休憩機能	駐車場	<ul style="list-style-type: none"> 国道4号の将来交通量を用いて東日本高速道路株式会社の設計要領に基づき算定(平成42年暫定2車線交通量を採用した場合の駐車台数と面積) ※平成42年完成4車交通量を採用した場合は利用者駐車台数は計159台となる(配置案の第1～4-3案) 	利用者用：125台 小型車：101台 大型車：21台 身障者用：3台 荷捌き用：5台 従業員用：10台 面積 8,506 m ²
	トイレ	<ul style="list-style-type: none"> 駐車まず数の算定結果から東日本高速道路株式会社の設計要領に基づき算定(平成42年暫定2車線交通量を採用した場合の箇所数と面積) ※平成42年完成4車交通量を採用した場合は面積330 m²となる(配置案の第1～4-3案) 	男性用 小：8箇所 大：6箇所 大型ブース：1箇所 ホストメイト：1箇所 洗面所：3箇所 子どもコーナー：1箇所 女性用 大：25箇所 大型ブース：1箇所 ホストメイト：1箇所 洗面所：5箇所 パウダールーム：8箇所 子どもコーナー：1箇所 多機能 多機能トイレ：1箇所 面積 290 m ²
情報提供機能	情報提供施設	<ul style="list-style-type: none"> 岩手県内の道の駅へのアンケート調査から平均的な面積を確保 	100 m ²
地域連携機能	飲食コーナー(フードコート等)	<ul style="list-style-type: none"> 駐車まず数の算定結果から東日本高速道路株式会社の設計要領に基づき算定 ただし、①交流スペースで団体客の受け入れを想定、②団体客の利用は毎日ではないため過剰投資を避けるためバス利用者の利用を見込まずに規模を算定 	180 m ²
	厨房	<ul style="list-style-type: none"> 東日本高速道路株式会社の設計要領に基づき、客席面積の40%程度を確保 	72 m ²
	軽食コーナー	<ul style="list-style-type: none"> 岩手県内道の駅アンケート調査から道の駅みやこの面積を参考面積として確保 	26 m ²

機能・施設		算定の考え方	算定結果
地域連携機能	交流スペース	● 建築設計資料集成、東日本高速道路株式会社の設計要領に基づき「受付（相談窓口）スペース」と「団体客受入スペース」の必要面積を確保	103 m ²
	物産・産直	● H26年度 6次産業化総合調査報告と商業コンサルタントのアドバイスに基づき必要面積を確保	440 m ²
	加工施設	● 建築設計資料集成に基づき必要面積を確保	23 m ²
その他（管理機能）	事務室	● 建築設計資料集成に基づき必要面積を確保	55 m ²
	乗務員休憩室	● 建築設計資料集成に基づき必要面積を確保	5 m ²
	付帯施設	● 東日本高速道路株式会社の設計要領に基づき必要スペースを確保	270 m ²
	荷捌きスペース	● 東日本高速道路株式会社の設計要領に基づき5台分の必要スペースを確保	1,034 m ²

このほか、計画地が「森林地域」の「県有林・民有林」に指定されているため、岩手県との協議により開発面積の25%以上を残置森林・造成森林として確保します。ただし、国有地（国土交通省所管）は林地開発規制対象から除外されているため、残置森林・造成森林を確保すべき開発面積には含みません。

さらに、岩手山・姫神山の眺望を活かした休憩・展望広場と子ども広場、交流を促進するイベント広場の整備が求められていることから、建物配置、駐車場配置、敷地形状を考慮し必要となるスペースを確保します。

また、調整池は簡便法により必要貯留量を算定しました。

(2) 施設配置比較検討

基本構想に基づき施設配置の前提条件の整理、配置計画概念図を踏まえ、以下の3案を検討しました。

第1案：建物の北側に駐車場から隔離した広場を配置し、眺望を楽しみながら休憩できるスペースを確保した案

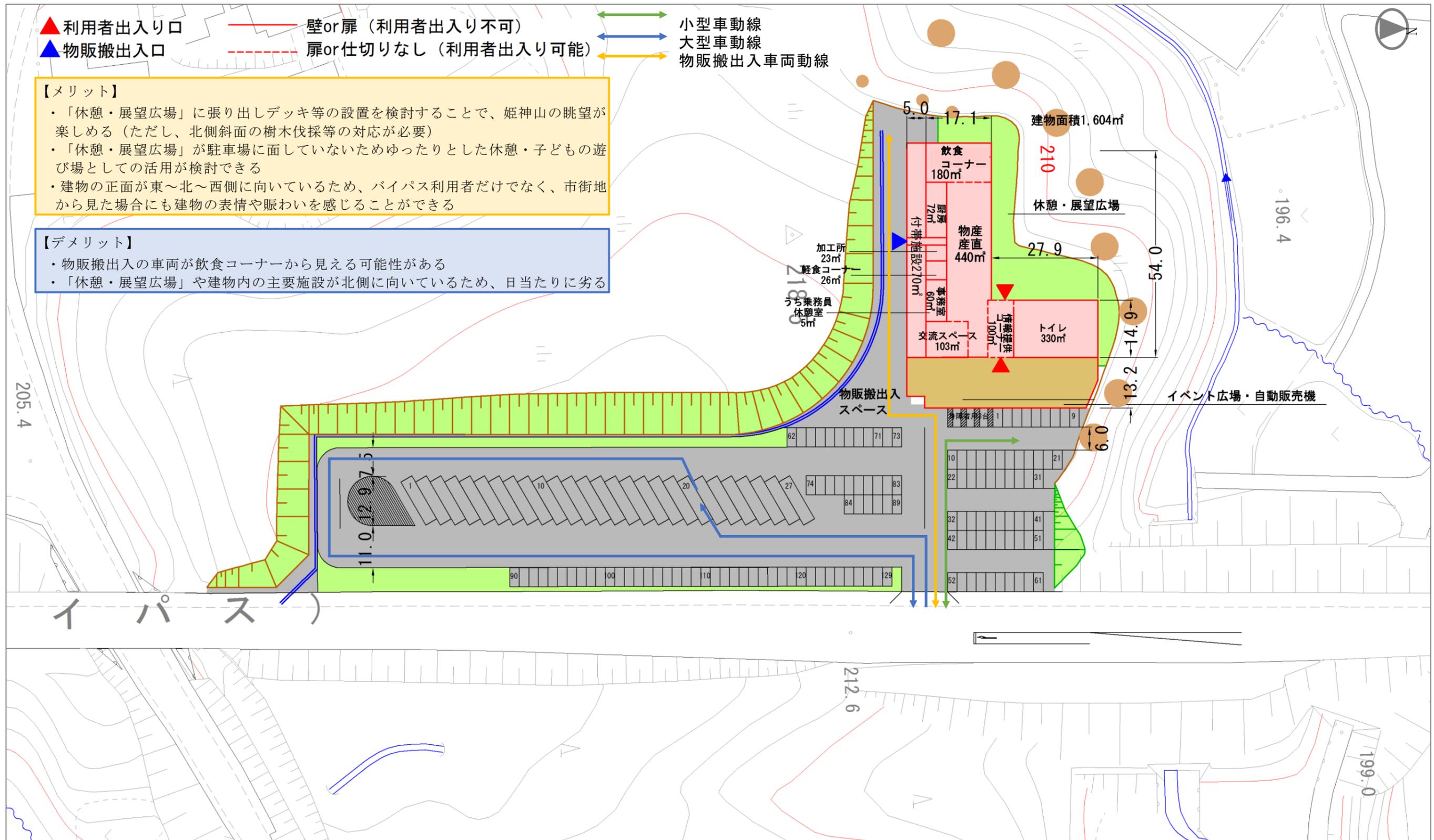
第2案：建物の南～東側にイベント等を行える広場を整備し、建物の賑わいが駐車場からも見えるようにした案

第3案：建物南～東側に展望・休憩広場、イベント広場を確保し、建物だけでなく広場やイベント広場といったにぎわい空間全体を駐車場や道路から見えるようにした案

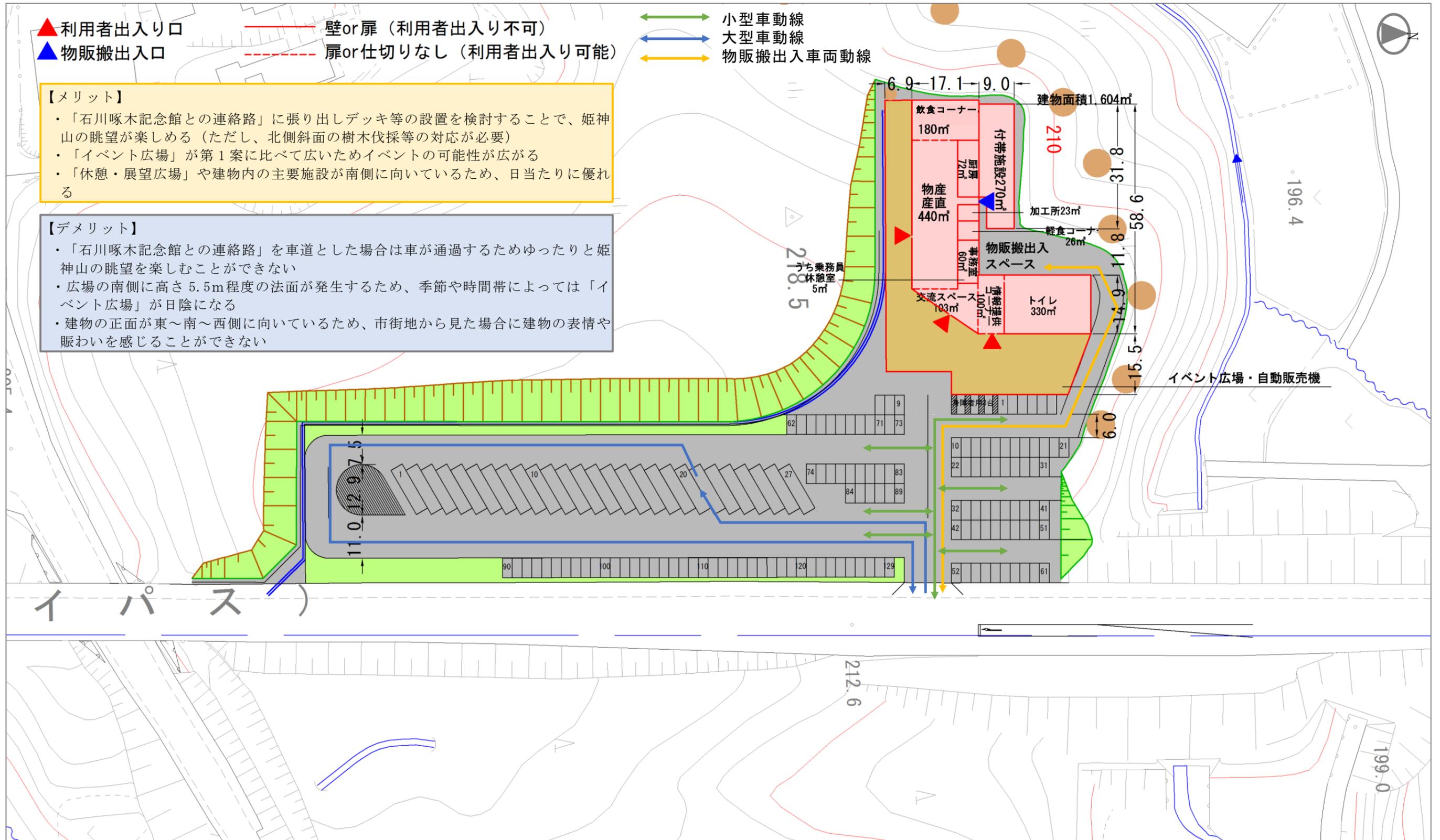
以上の検討について、ワークショップ等の開催による地域住民からの意見や先進道の駅の管理者等からの助言からから、国道4号渋民バイパス側から建物施設の見え方についての意見が多かったことから、第3案を最良案としました。

更に第3案を基本に関係機関との協議やワークショップ意見を踏まえ、取得済の用地を拡張し、建物施設の再配置、造成からみた計画区域の再検討、土木概算工事費の縮減を含めた検討を第4案として行いました。

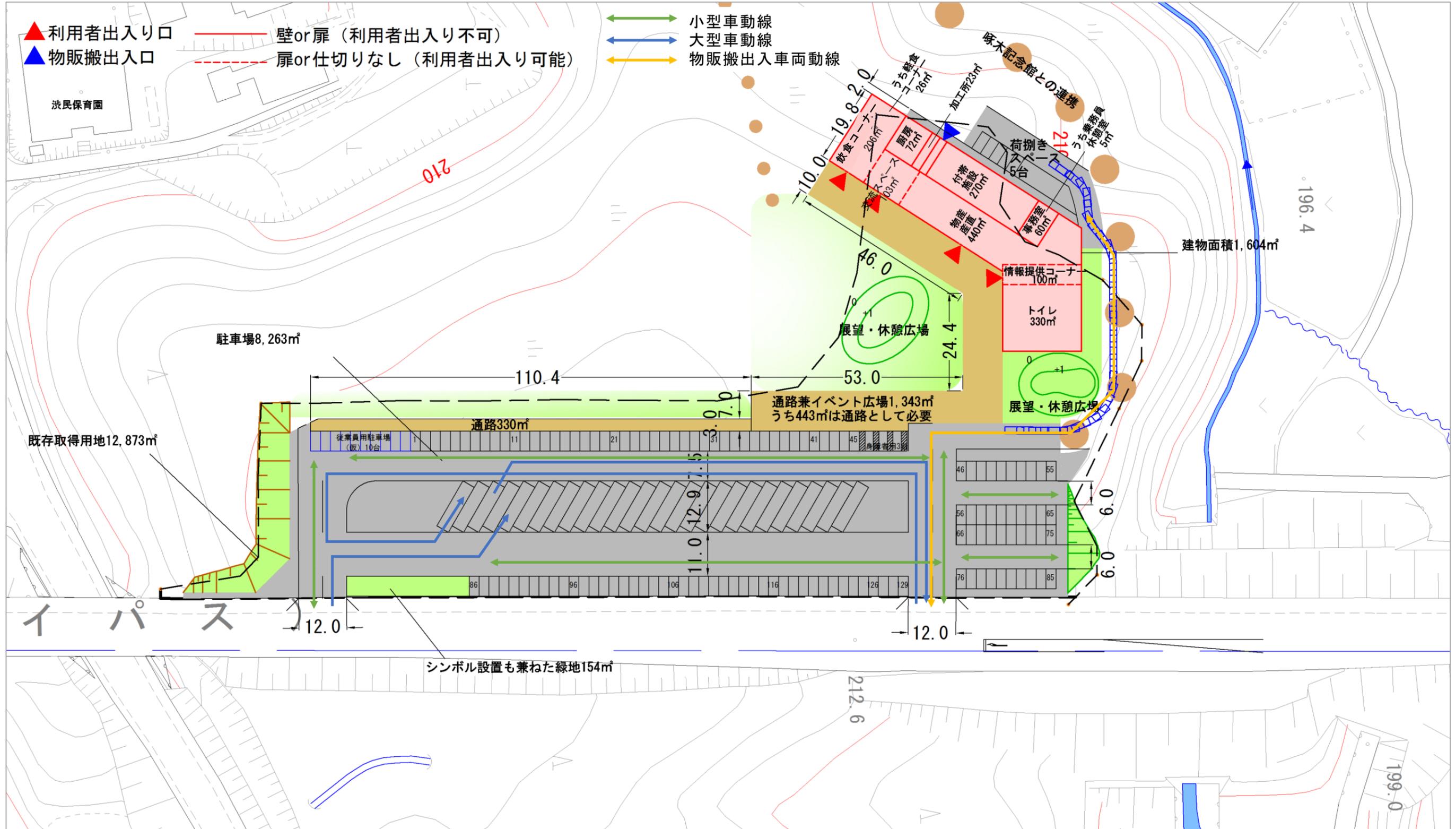
配置図(第1案): 建物の北側に駐車場から隔離した広場を配置し、眺望を楽しみながら休憩できるスペースを確保した案



配置図(第2案): 建物の南～東側にイベント等を行える広場を整備し、建物の賑わいが駐車場からも見えるようにした案



配置図(第3案): 建物南~東側に展望・休憩広場、イベント広場を確保し、建物だけでなく広場やイベント広場といった賑わい空間全体を駐車場や道路から見えるようにした案



6-5 適正な施設規模の検討

(1) 施設規模検討の目的

配置計画第3案について、必要な用地拡張を行うとともに、財源が限られる中で、より効率的な事業とするため、適正な施設規模の検討を行いました。

機能・施設		縮減可能規模 の考え方	削減結果
地域連 携機能	交流スペース	<ul style="list-style-type: none"> 「団体客受入スペース」に可動式の受付（相談窓口）として、受付専用面積を削減 	103 m ² ⇒90 m ²
	物産・産直	<ul style="list-style-type: none"> 産直出荷者の確保に課題があることから、産直面積を物産面積の1/2に削減 	440 m ² ⇒323 m ²
その他 (管理機能)	事務室	<ul style="list-style-type: none"> 乗務員の方が他スペースで休憩することとして、休憩室を削減 	60 m ² ⇒55 m ²
建築面積			603 m ² ⇒468 m ² 135 m ² 縮減
敷地面積		<ul style="list-style-type: none"> 敷地南側の取得予定用地は、造成計画上削減しても残地・造成森林面積が25%以上確保可能なことから面積を削減 	32,787 m ² ⇒30,217 m ² 2,570 m ² 縮減 ※残地・造成森林面積 全体：30,217 m ² ・・・① 国交省用地：6,966 m ² ・・・② 残・造成森林を確保する面積は、①-②23,251 m ² ・・・③ 縮減案の残・造成森林面積 =6,095 m ² ・・・④ ③の25%=5812.75 m ² ④ > ⑤
連絡路		<ul style="list-style-type: none"> 車道から遊歩道（散策路） 	通路幅7m⇒2m ※造成等の減含む

(2) 概算工事費

下記の条件により概算事業費を算定しました。なお、本事業費は基本計画段階の概算費用であり、今後変更となる場合があります。

・ **土木設計**

設計面積A=3.2ha ※縮減案は3.0ha

用地・現況測量面積A=15.5ha

・ **建築設計**

延床面積A=1,429㎡（各種申請手数料を含まない）

・ **土木工事**

都市計画図（1/2,500）を基本図とし、工事区分ごとに数量を積み上げ概算を算出

・ **建築工事**

構造や仕様が基本設計時に決定するため類似事例の平均㎡単価（下表）を基本として算出した

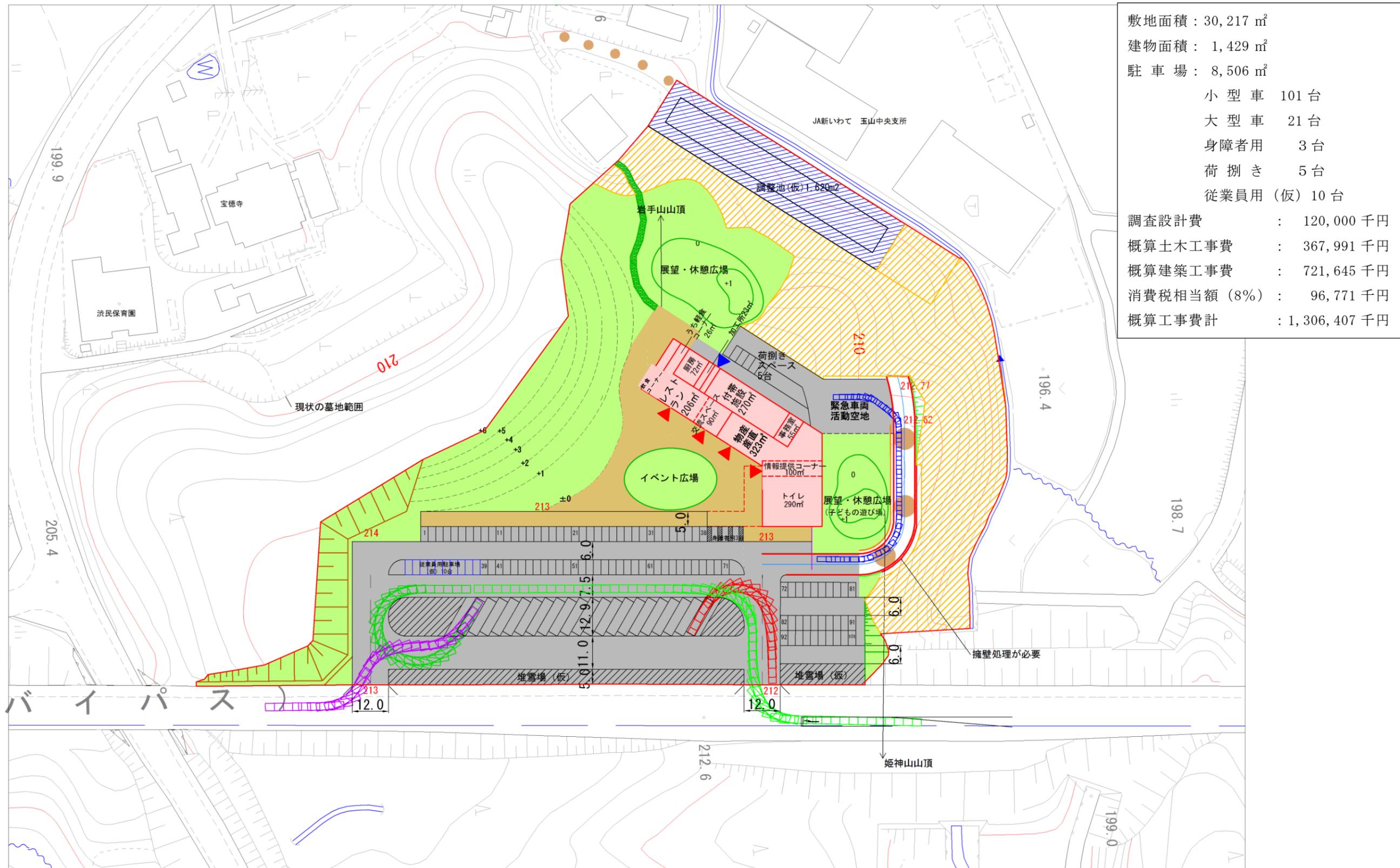
類似道の駅建築工事費	構造	建築工事単価	備考
F 県 I 町	R C 造、木造	490,000 円 / ㎡	設備工事費含む
I 県 H 町	木造	520,000 円 / ㎡	
平均		505,000 円 / ㎡	

・ **概算事業費**

（単位：千円）

費目		第4案
調査設計費（測量・地質調査・建築管理業務含む）		120,000
概算工事費	土木工事費	367,991
	建築工事費	721,645
消費税相当額（8%）		96,771
計		1,306,407

配置図第4案 ※用地拡張を想定した配置(用地拡張について地権者交渉中)



配置図第4案 パース図 ※用地拡張を想定したイメージ(用地拡張について地権者交渉中)



(3) 施設規模

第4案における施設規模一覧

機能・施設		算定の考え方	算定結果
休憩機能	駐車場	<ul style="list-style-type: none"> 国道4号の将来交通量を用いて東日本高速道路株式会社の設計要領に基づき算定 	利用者用：125台 小型車：101台 大型車：21台 身障者用：3台 荷捌き用：5台 従業員用：10台 面積 8,506㎡
	トイレ	<ul style="list-style-type: none"> 駐車ます数の算定結果から東日本高速道路株式会社の設計要領に基づき算定 	男性用 小：8箇所 大：6箇所 大型ブース：1箇所 オストメイト：1箇所 洗面所：3箇所 子どもコーナー：1箇所 女性用 大：25箇所 大型ブース：1箇所 オストメイト：1箇所 洗面所：5箇所 パウダールーム：8箇所 子どもコーナー：1箇所 多機能 多機能トイレ：1箇所 面積 290㎡
情報提供機能	情報提供施設	<ul style="list-style-type: none"> 岩手県内の道の駅へのアンケート調査から平均的な面積を確保 	100㎡
地域連携機能	飲食コーナー (フードコート等)	<ul style="list-style-type: none"> 駐車ます数の算定結果から東日本高速道路株式会社の設計要領に基づき算定 ただし、①交流スペースで団体客の受け入れを想定、②団体客の利用は毎日ではないため過剰投資を避けるためバス利用者の利用を見込まずに規模を算定 	180㎡
	厨房	<ul style="list-style-type: none"> 東日本高速道路株式会社の設計要領に基づき、客席面積の40%程度を確保 	72㎡
	軽食コーナー	<ul style="list-style-type: none"> 岩手県内道の駅アンケート調査から道の駅みやこの面積を参考面積として確保 	26㎡
	交流スペース	<ul style="list-style-type: none"> 建築設計資料集成、東日本高速道路株式会社の設計要領に基づき「受付（相談窓口）スペース」と「団体客受入スペース」の必要面積を確保 	90㎡
	物産・産直	<ul style="list-style-type: none"> H26年度6次産業化総合調査報告と商業コンサルタントのアドバイスに基づき必要面積を確保 	323㎡
	加工施設	<ul style="list-style-type: none"> 建築設計資料集成に基づき必要面積を確保 	23㎡

機能・施設		算定の考え方	算定結果
その他 (管理機能)	事務室	<ul style="list-style-type: none"> 建築設計資料集成に基づき必要面積を確保 	55 m ²
	付帯施設	<ul style="list-style-type: none"> 東日本高速道路株式会社の設計要領に基づき必要スペースを確保 	270 m ²
	荷捌きスペース	<ul style="list-style-type: none"> 東日本高速道路株式会社の設計要領に基づき5台分の必要スペースを確保 	1,034 m ²
建物 床面積			1,429 m ²
敷地 面積			30,217 m ²

第7章 建築(空間・意匠)計画

道の駅計画地は「盛岡市景観計画」の「田園・丘陵景観地域（景観形成地域）」「街路景観地域広域（景観形成重点地域）」に指定されているため、計画に準拠した空間・意匠計画を行う必要があります。

また計画地の特徴であり、かけがえのない景観形成要素である「岩手山」「姫神山」や、郷土の歌人である「石川啄木」を重要なコンテンツと捉え、住民懇談会等の意見を踏まえ、以下のコンセプトを設定しました。

建築（空間・意匠）計画のコンセプト（案）

- (1) 「玉山らしさ」を意識した空間・意匠
- (2) 岩手山、姫神山の眺望を意識した空間・意匠
- (3) 四季の変化を意識した空間・意匠
- (4) 様々な利用形態にフレキシブルに対応する空間

(1)「玉山らしさ」を意識した空間・意匠

- 岩手山、姫神山の眺望を楽しむことのできる空間を確保した計画を検討します。
- 石川啄木を感じられ、石川啄木記念館や渋民小学校等、周辺施設と調和した意匠計画を検討します。
- 盛岡市産材のカラマツの活用や、啄木ゆかりの施設（旧渋民尋常小学校等）を感じさせる意匠計画としつつ、経済性や耐久性、メンテナンス性に優れた計画を検討します。
- 玉山の「自然に溶け込み落ち着いた暮らしを感じさせ、ふるさとをイメージさせる景観」に配慮した意匠計画を検討します。
- 子ども連れや長距離ドライバーがゆったりとくつろげる空間計画を検討します。
- 玉山歴史民俗資料館・石川啄木記念館整備事業が計画されているため、それらの建築計画との整合を図るように努めます。

(2)市街地からの眺望を意識した空間・意匠

- 計画地は丘陵地に位置するため、市街地や石川啄木記念館からの見え方に配慮した意匠を検討します。
- 全方向から見られる施設であることに留意し、バックヤード等は遮蔽植栽を施すといった配慮を検討します。

(3)四季の変化を意識した空間・意匠

- 春～秋にかけては屋外空間も含めて地域の自然や景観資源を楽しめる空間を検討します。
- 駐車場の除雪や冬期の強風や吹雪に配慮した施設計画（風除室の設置、建物の向き等）を検討します。
- 屋根からの落雪などによる被害の防止や堆雪の排除に配慮した計画を検討します。
- 雪を有効に活用し、特徴にできるような方策についても検討を行います。

(4)様々な利用形態にフレキシブルに対応する空間

- 道路利用者の一時避難や、団体客、施設の変更などに対応できるフレキシブルな空間を検討します。
- 冬期や雨天時にも誰でも快適に利用できるよう、ユニバーサルデザインに配慮した計画を検討します（下屋の設置等）。
- イベント空間等の整備により、道路利用者に賑わいと活気ある空間をアピールできる計画を検討します。

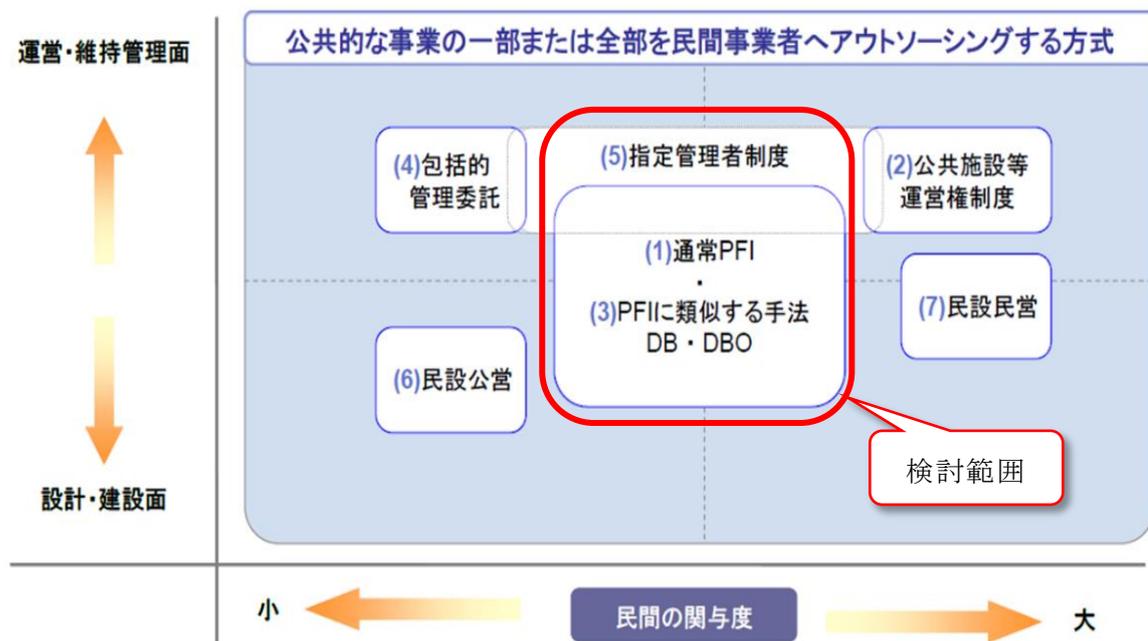
第8章 管理運営

8-1 管理運営方式の検討

道の駅の管理運営方式は、全国 1,004 駅（H25. 4 時点）の道の駅の管理運営者（国土交通省HPより）をみると、地方自治体直営が 15.7%、第3セクターが 31.1%、指定管理者（民間企業等）が 44.3%、財団法人等が 8.9%と、民間事業者のノウハウを活用した適切で柔軟な管理運営組織を選定できる指定管理者（制度）による管理運営が最も多くなっています。

また、事業初期段階から民間ノウハウを活かすスキームを含んだPFI手法による先行事例もみられます。道の駅は国土交通省の登録制となっていますが、登録の条件として、設置者は市町村等（都道府県、地方公共団体が3分の1以上出資する法人、市町村が推薦する公益法人）と定められていることや、先行事例から「指定管理者制度」、「DBO方式」、「BTO方式」の導入が現実的な選択肢となるものと考えられることから、PPP/PFI方式について、今後具体的な検討が必要となります。なお、これらの制度における運営について、次ページに比較整理しました。※参考として「公共施設等運営権制度（コンセッション方式）」についても同様に整理

▼官民連携手法のタイプの分類イメージ



出典：国土交通省 PPP/PFI 事業・推進方策（H26年7月）より編集

▼管理運営方式の整理（その1）

整備方式		特徴	メリット	デメリット
公設	① 公設公営 (直営方式)	<ul style="list-style-type: none"> ● 地方自治体が資金調達から管理運営まで担う、いわゆる従来型の公共事業手法 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共性の確保 ● 長期的な施設運営視点の確保 ● 安定経営指向 	<ul style="list-style-type: none"> ● 採算ベースの視点が薄れる ● 運営上の意思決定に時間を要する ● 経営ノウハウが限られる
	② 管理委託	<ul style="list-style-type: none"> ● 地方自治体が資金調達から設計、施工を行い、管理運営を財団法人等に委託 	<ul style="list-style-type: none"> ● 運営に公が関与するため公共性が確保される 	<ul style="list-style-type: none"> ● 管理権限を委託者が保有できないため柔軟な管理を行いにくい
	③ 指定管理	<ul style="list-style-type: none"> ● 地方自治体が資金調達から設計、施工を行い、管理運営は第三セクターや民間事業者委ねる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切な管理・運営組織を選定することができる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 設計・施工・運営・維持管理までの一貫性は担保できない
	④ DBO方式	<ul style="list-style-type: none"> ● 市が資金調達し、設計・建設を民間事業者委託するとともに管理運営も民間事業者が行う事業方式 	<ul style="list-style-type: none"> ● 設計段階から民間ノウハウを活用し、運営まで継続可能 ● 民間事業者の資金調達に伴うリスクを減らすことができる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 資金調達を行政が行うため、行政側の経費負担の年度平準化は従来方式と同様の状況となる ● BTO方式に比べて民間事業者の創意工夫範囲は減少する ● 収益性優先の運営になる恐れがある

▼管理運営方式の整理（その2）

整備方式		特徴	メリット	デメリット
民設民営	P F I	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者の資金力、技術力、経営方法を導入・活用し、設計・建設・管理運営までを一括で民間事業者に委ねる 	<ul style="list-style-type: none"> 施設整備において財政負担を軽減（平準化）できる可能性がある 設計～運営まで一貫して同じ民間事業者が行うため、整備・運営方針がぶれない 	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者が主体的にサービスを提供するため、行政がきめ細かく管理・指導を行わないと公共サービスの質の低下を招く可能性がある 導入可能性調査から実施方針公表、事業者の選定・契約まで一般的に2年程度の手続き期間を要する
	⑤ B T O方式	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者が施設等を建設し、建設後に市に譲渡、民間事業者が維持・管理運営を行う事業方式 	<ul style="list-style-type: none"> 民間ノウハウを活かした施設整備、運営が可能 行政の年度コスト負担が平準化可能 	<ul style="list-style-type: none"> 収益性優先の運営になる恐れがある 民間事業者側で資金調達を行うため、事業者側のリスクが伴い立地や条件によっては民間事業者の参入が見込まれない可能性がある 市中金利による資金調達が事業に影響を及ぼす可能性がある 当市の場合、市街化調整区域への建設となるためリース方式を内包する事業形態とすることは困難
	⑥ コンセッション方式	<ul style="list-style-type: none"> 利用料金を取る施設の運営権を民間に譲渡し、民間はその運営権を担保に資金調達を行い、事業運営を行う方式 	<ul style="list-style-type: none"> 運営コストが大きい事業について運営権を活用した資金調達を行った上で民間ノウハウを活かした運営するとともに、行政側は運営権の売却に伴う収入を施設整備費の償還等に充てることができる 	<ul style="list-style-type: none"> 海外ではサービス向上とともに利用料金の値上げ(当初に定められた上限額の範囲内)が続いている事例がある 事業者が買収され運営権が国外企業に移転した事例等がある

8-2 管理運営方法の整理

各施設の運営方法を下表のとおり想定しました。

施設構成		運営目的	運営方法（案）
収益施設	地域連携施設	物産・産直施設	管理運営者による直接管理もしくはテナント出店
		飲食コーナー	
		加工施設	
	交流スペース イベント広場	オリジナル商品の開発・支援	管理運営者による直接管理
公益施設	休憩施設	バイパス利用者の休憩・利便サービス	
	情報提供施設	地元ならではのコアな観光情報の受発信	
	防災施設	バイパス利用者の防災機能を中心とした整備を検討	
	地域連携施設	玉山歴史民俗資料館、石川啄木記念館への誘導	

(1)事業手法(整備方法・管理運営方式)

第8章8-1に記載のとおり、道の駅の整備・運営方法はPPP/PFI等各種方式がありますが、「将来にわたり持続可能な地域を創ることや地域振興を目的としている当事業」においては、「起業や地域ビジネスの育成、経営参画等により将来のまちづくりを担う人材の育成、地域経済の振興、より地域性のある運営」等の観点に加え、「民間ノウハウの活用や、事業規模による民間参入の可能性、事業スケジュール」などを総合的に判断し、「地元を中心に経営参画者を早期に公募し、その意見を取り入れながら盛岡市が整備を行い、指定管理者制度により管理運営を行う方式（PPP／公設民営方式）」とする事業手法が最適と判断します。

(2)運営主体

指定管理者による管理運営にあたり、地域づくりの観点や地域性のある運営とするため、次のような取り組みを検討します。

- ・ 地元を中心に経営参画者の公募を行い、運営組織を法人化すること
- ・ 人材育成の点から「熱意のある人」、「ふるさとに想いのある人」の参画も検討する
- ・ 効果的で効率的な施設整備と運営を実現するとともに、民間の創意工夫を計画段階から取り入れるために、早期に運営主体となる候補者を公募し、「(仮称)道の駅もりおか準備運営協議会」を組織し、計画段階からの参画体制をつくる
- ・ 多くの市民に自分たちの道の駅であるという意識の醸成を図るとともに、運営に参加できる仕組みづくりも検討する
- ・ 持続可能な経営のため経常収益が持続的に黒字となる経営計画とする

(3)管理運営団体の収益事業可能性

管理運営団体を具体的に組織化する場合の基礎資料として、概略の売上見込みと想定される人員を確認するため、近隣道の駅（3箇所）への訪問調査を行い、年間利用者数や年間売り上げなど、提供頂いた貴重な実績データから、本道の駅の収支計画シミュレーション（参考値）と比較しました。

その結果、本道の駅の収益施設で管理運営団体が事業採算性を担保することが数字上可能な結果が確認されました。

		道の駅 A	道の駅 B	道の駅 C	本道の駅 ※推計値
前面交通量		16,802台/日	18,383台/日	11,890台/日	12,400台/日
駐車マス数		100台	107台	128台	125台
建築面積	産直・物産施設	477㎡		243㎡	323㎡
	飲食施設		80席	187㎡	180㎡
利用者数	年間利用者数 ※売店レジカウント	4.7万人	37万人	40~43万人	21万人
	1日平均利用者数 (立寄人数)	129人	700人~800人	1,200人	575人 (2916人)
年間売り上げ	物産・産直施設	物産 9000万円 (産直は別運営)	3億円 (産直のみ 1億4,600万円)	3億6000万円	1億300万円
	飲食施設	委託		7200万円	4300万円
客単価	物産・産直施設			1,360円	
	飲食施設			900~1,000円	
スタッフ人数		社員2人 パート6人	社員5人 パート17人	社員3人 パート32人	社員5人 パート17人

収支計画シミュレーションの検討(参考)

【シミュレーション条件】

- 入込客数は、バイパスの立ち寄り率のみから算定 (2,916 人/日、106 万人/年、購買率 20%として 21 万人/年) し、近隣の商圏人口は含んでいない。
- 数値条件は、宮城県内道の駅・直売所 (12 ケ所) の実績から設定。

【収益部分】

(千円)

収 支 項 目	初年度	備 考
農産物売上高	51,500	農産物売上高(50%): 加工品売上高(50%)
加工品売上高	51,500	
直売所売上高合計	103,000	入込客数×全体購買率(20%)×直売所利用6割×道の駅平均客単価(816円)
農産物売上手数料収入	8,498	生産者会員15%・非会員18%→平均手数料16.5%
加工品売上手数料収入	12,875	一律25%
レストランゾーン飲食収入	43,000	@860-原価率40%=[510円]×レストラン飲食
売上高合計①	64,373	
人件費	37,000	営業部門 正社員3名 パート15名、管理部門 正社員2名 パート2名
(内 役員報酬等)	0	
(内 スタッフ人件費)	37,000	
減価償却費	5,000	初期設備投資金額 20,000千円 平均8年償却(定率法償却率: 25%)
少額資産一括損金算入	1,590	テーブル、イス、パソコン等の備品を想定
販売促進費	2,060	施設物販年間総売上の2%で試算
光熱費	3,605	施設物販年間総売上の3.5%で試算(中小企業庁経営指標業界平均値)
車両リース料	536	
その他維持管理費	3,600	修繕費、施設警備費、消耗品費、什器レジリース料、福利厚生費等(月間300千円で試算)
初期仕入備品	1,000	初期仕入備品(食器・コップ・はし・紙おしぼり・調味料入れ・トレイ等)1,000千円
販売管理費合計②	54,391	
営業利益③(①-②)	9,982	
キャッシュフロー(③+原価償却費)	28,587	

- ・ 初年度営業利益 9,982 千円との試算結果

【非収益部分】

(千円)

収 支 項 目	初年度	備 考
人件費	11,266	収益部分経費の面積比で試算
光熱費	1,098	〃
その他維持管理費	1,096	〃
合計	13,460	

- ・ 収益部分 (1,095.45 m²) を基に、非収益 (333.55 m²) に対し、該当する項目 (人件費・光熱費・その他維持管理費) を面積比で適用し試算
- ・ 初年度 13,460 千円の経費を想定 (当該経費については国土交通省及び盛岡市において相応分を負担)
- ・ 収益部分の利用許可・賃借等の方式は今後決定することになるが、収益施設での収益から「施設使用料等」を徴収し、非収益部分の維持管理経費に充てることを想定

8-3 事業スケジュール(案)

事業スケジュール案を次のとおり想定しています。

工種等/スケジュール	平成29年度		平成30年度		平成31年度		平成32年度		平成33年度		平成34年度		平成35年度		平成36年度		
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	
合意形成		↑															
事業手法検討			導入検討シナリオの中合意形成														
基本計画				基本計画案の調整													
管理運営体制の検討				アドバイザーによる支援、組織編成決定、施設シナリオ、運営組織設立等													
土地利用法規制関連				開発許可 林地開発 岩手県景観計画 土地地価調査(土壌汚染対策法)				事前協議 → 開発許可 基本計画案の最終確認 着手の段階での進捗									
現地測量				基準高測量、水準測量、地形測量、踏査測量、用地測量													
地質調査				準備作業、ボーリング調査、標準貫入試験、室内土質試験等													
土木設計				概算・配管計画、製地、降流、道路、面・排水、緑地、インフラ、数量計算、概算工事費等													
建築設計				マスタープラン作成、ラフプラン作成、基本図作成、仕様書等、基本設計書、概算設備費等の概算、基本計画基本図、現地計画、作図、確認申請													
工事																	
											完成準備、切土、仮設工事等		完成準備、切土、仮設工事等		完成準備、切土、仮設工事等		
												完成準備、切土、仮設工事等		完成準備、切土、仮設工事等		完成準備、切土、仮設工事等	

第9章 施設整備のための資金計画

9-1 「道の駅」の整備手法の整理

道の駅の整備手法としては道路管理者と自治体が協力して整備を行う「一体型整備」と、自治体が単独で整備を行う「単独型整備」があります。「一体型整備」のメリットとしては自治体の費用負担軽減、広域的な道路情報の提供等があります。平成28年10月現在で1,107駅のうち、56%（617駅）が「一体型整備」、44%（490駅）が「単独型整備」の道の駅となっています。

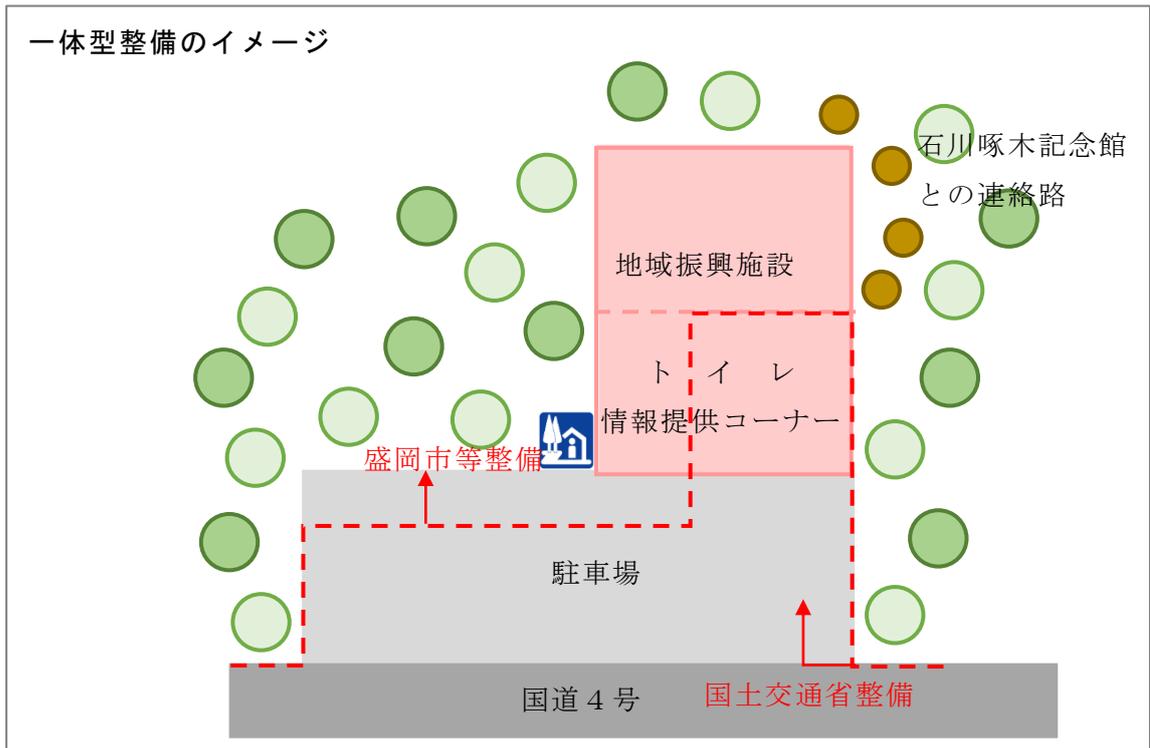
本道の駅では上記に示したメリットに加えて、平成7年に国道4号の道路管理者である国土交通省と旧玉山村で道の駅整備に向けた用地取得を行っていることから、「一体型整備」の実現に向けて、今後調整を進めていきます。

「一体型」での整備を進める場合、本計画で設定した導入施設の整備については、次のような役割分担が想定され、今後協議をしながら整備を進めていきます。

導入施設		想定される整備主体	
		盛岡市等	国土交通省
休憩施設	駐車場	○	○
	トイレ	○	○
情報提供施設	道路情報	○	○
	地域情報	○	
地域連携施設	飲食コーナー	○	
	加工施設	○	
	物産・産直	○	
	交流スペース	○	
	乗務員休憩室	○	
	事務室	○	
	イベント広場	○	
	休憩・展望広場	○	
	付帯施設	○	○※1
その他施設	調整池	○※2	
	残置森林	○※2	

※1 道路管理者整備分のトイレに必要となる付帯施設

※2 関係機関との協議により設置が必要となった場合



9-2 盛岡市が整備主体となる施設の整備方法について

盛岡市等が整備主体となる導入施設等は、「道の駅」だけでなく地域全体を活性化させるという視点から、様々な主体との連携を意識しながら整備手法を検討していきます。

また、導入施設の内容等を踏まえて各種補助事業を活用することを視野にいれながら、整備手法を検討します。

【想定される補助事業】

補助事業	概要	想定される 適用施設	備考 (交付条件等)
社会資本整備 総合交付金 (国土交通省)	<ul style="list-style-type: none"> 社会資本整備事業や防災・安全交付金事業の実現のために総合的・一体的に支援する制度 	<ul style="list-style-type: none"> トイレ 情報提供施設 駐車場 案内標識・案内板 情報提供設備 防災設備 	<ul style="list-style-type: none"> 社会資本総合整備計画の策定
農山漁村振興 交付金 (農林水産省)	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな地域資源を活用した観光・福祉・教育等の取組や農山漁村への定住等を促進し、農山漁村の振興を図る制度 自然や「食」を活用した地域活動の支援や、農山漁村での定住や地域間交流の促進、所得の向上や雇用増大を図るための施設等の整備を支援 	<ul style="list-style-type: none"> 物産・産直 交流スペース 	<ul style="list-style-type: none"> 農山漁村の定住・交流促進のための活性化計画の策定
6次産業化 ネットワーク 活動交付金 (農林水産省)	<ul style="list-style-type: none"> 地域の創意工夫を生かし、多様な事業者がネットワークを構築して取り組む新商品開発や販路開拓、農林水産物の加工・販売施設の整備等の取組や、市町村の6次産業化等に関する戦略に沿って行う地域ぐるみの6次産業化の取組を支援する制度 人材育成、新商品の開発・製造、販路開拓等の取組み支援に加えて、取組に必要となる加工機械や施設等の整備を支援 	<ul style="list-style-type: none"> 加工所 レストラン等飲食施設 新商品開発 	<ul style="list-style-type: none"> 6次産業化に関する市町村の戦略策定
次世代自動車 充電インフラ 整備促進事業 (経済産業省)	<ul style="list-style-type: none"> 電気自動車（EV）やプラグインハイブリッド自動車（PHEV）に必要な充電インフラの整備を加速することを支援する制度 充電器の購入費及び工事費の一部を支援 	<ul style="list-style-type: none"> EV充電器 	<ul style="list-style-type: none"> 暴力団排除に関する制約事項への制約

9-3 財源

道の駅設置事業は国土交通省と一体型の道の駅となることから、国土交通省による事業費負担と、盛岡市による事業費負担で整備することとなります。主に地域振興施設分について盛岡市の負担となりますが、全体的な整備費の負担については、今後、整備の方法等と併せて国土交通省と協議を行っていくこととなります。

また、盛岡市負担分については、当事業が、盛岡市・玉山村新市建設計画事業となっていることから主に合併特例債を活用することや、各種補助事業の導入等の財源確保を検討していきます。

第10章 今後の課題

10-1 管理運営に関する課題

(1) 運営組織の立ち上げ

本計画で整理した整備メニューの実現に向けて率先して計画を推進する組織と人材を育成し、運営の母体となる団体の立ち上げなどを検討する必要があります。

また、ワークショップでは「検討経緯を含めて情報発信していく必要がある」との意見も出ており、実現に向けた検討が必要です。

10-2 施設整備に関する課題

(1) 整備計画の検討

本計画をベースとして、整備方式に合わせた具体的な施設整備計画（基本設計）を立案する必要があります。

基本設計と並行して上下水道や電気等の供給処理設備事業者との調整や、駐車場出入口となる交差点改良、出入口位置、防災調整池等について関係機関との調整を行っていく必要があります。また、道路管理者との一体型整備に向けて具体的な整備内容や役割分担等について調整を行う必要があります。

(2) 補助金活用の検討

「道の駅」に想定される補助事業は、前述で整理しているとおり、トイレ、情報提供施設、物産・産直、EV充電器などのハード整備はもとより、6次産業化の新商品開発や販路開拓などのソフトの対策と一体となった支援があり、導入施設の具体化をみながら最適な補助事業を今後検討する必要があります。

また、6次産業化ネットワーク活動交付金など、地方公共団体以外に民間団体も可能な補助メニューもあり、相乗効果的な活用について、整備方式や管理運営団体のあり方とともに検討する必要があります。

(3) 各種手続き・用地取得に関する調整

本計画の実現に向けて用地取得の検討を引き続き進める必要があります。

また、森林法に基づく林地開発、都市計画法に基づく開発許可申請に関する調整を進めていく必要があります。

(4) 歴史民俗資料館・石川啄木記念館との連携による魅力向上

道の駅と石川啄木記念館等との連携による魅力向上について、更に検討する必要があります。

第11章 KPI(重要業績評価指標)

11-1 KPIの設定

(1)道の駅事業におけるKPI

道の駅の整備効果について、KPI(Key Performance Indicators：重要業績評価指標)を定め、その成果を測定し、施設や運営方法の改善、新たな戦略の設定に繋げることとします。

(2)KPIの設定

前章までの検討結果に基づき、整備当初のKPIを次のとおり想定します。

なお、今後も事業の進捗に併せて、新たな指標や、指標値の設定について検討を継続することとします。

KPI項目	想定指標値等	参考
年間 来客者数	30万人	<ul style="list-style-type: none"> ・第8章8-2(3)交通量による立寄者試算 21万人 ・H26県内道の駅平均利用者数 28.4万人 (岩手経済研究H27年9月号) ・全国道の駅平均35.5万人，中央値22.5万人 (H24.3地域活性化センター調べ) <p>以上から、想定指標値を年間来客数30万人と設定します</p>
年間 総売上高	2億円	<ul style="list-style-type: none"> ・第8章8-2(3)交通量による物産・産直・飲食売上試算 1億4600万円 ・H26県内道の駅平均売上高2億1220万円 (岩手経済研究H27年9月号) ・全国平均2億3900万円，中央値1億4600万円 (H24.3地域活性化センター調べ) <p>以上から、想定指標値を年間総売上2億円と設定します</p>

※ 今後も、「交流人口」「関係人口」など新たな指標の設定等の検討を継続します。

第12章 道の駅整備方針検討会

12-1 道の駅整備方針検討会

(1)道の駅整備方針検討会

道の駅設置事業の推進にあたり、有識者や関係団体等で構成する道の駅整備方針検討会（15名以内で構成）での意見を反映させながら計画の作成を進めました。

道の駅整備方針検討会（平成31年3月時点） 会長・副会長を除き50音順

区分	所属	職名等	氏名	備考
会長	岩手県立大学	教授	倉原 宗孝	学識経験者
副会長	玉山地域自治会連絡協議会	会長	佐々木 由勝	地域関係者
委員	新岩手農業協同組合	玉山支所長	岩本 千秋	農業関係者
委員	(公財)盛岡観光コンベンション協会	専務理事兼事務局長	小原 俊彦	観光関係者
委員	洪民商店会	副会長	駒井 元	地域関係者
委員	新岩手農業協同組合	産直部会	櫻 輝夫	農業関係者
委員	(公財)盛岡市文化振興事業団	専務理事	佐々木 東	観光関係者
委員	IGR いわて銀河鉄道(株)	営業部長	佐藤 栄一	観光関係者
委員	(公財)盛岡地域地場産業振興センター	事務局長	武石 幸久	商工関係者
委員	盛岡商工会議所	常議員(玉山地域運営協議会会長)	千葉 進	商工関係者
委員	国土交通省 東北地方整備局 岩手河川国道事務所	副所長	十枝内 美範	道路管理者
委員	JTB 東北(株) 法人営業盛岡支店	支店長	堀内 紀孝	観光関係者
委員	たまやま振興(株)	支配人	村山 悦男	地域関係者
委員	玉山区農村青年クラブ	事務局	山本 早苗	農業関係者

道の駅整備方針検討会（所属団体での人事異動等により交代があった委員）

区分	所属	職名等	氏名	備考
委員	IGRいわて銀河鉄道 (株)	代表取締役社 長	菊池 正佳	平成27年度～ 平成29年度
委員	国土交通省 東北地方 整備局 岩手河川国 道事務所	副所長	木越 養一	平成27年度～ 平成28年度
委員	たまやま振興(株)	主任	櫻 司	平成27年度
委員	(公財)盛岡観光コン ベンション協会	専務理事兼事 務局長	佐藤 義見	平成27年度
委員	(公財)盛岡市文化振 興事業団	専務理事	獅子内 建二	平成27年度～ 平成29年度
委員	新岩手農業協同組合	玉山支所長	田頭 智明	平成27年度
委員	新岩手農業協同組合	玉山支所長	八重畑 修一	平成28年度～ 平成29年度

(2)道の駅整備方針検討会開催経緯

道の駅整備方針検討会開催経緯

日付	内容	備考
平成27年8月18日	第1回検討会開催	
平成28年2月2日	第2回検討会開催	
平成29年3月22日	第3回検討会開催	
平成30年11月13日	第4回検討会開催	
平成31年3月1日	第5回検討会開催	

道の駅整備方針検討会

事務局：盛岡市玉山総合事務所総務課

〒028-4195

盛岡市渋民字泉田 360

電話 019-683-2116 / FAX 019-683-1130

電子メール tm.soumu@city.morioka.iwate.jp